

北の蹄跡

March 2024

一般社団法人 札幌馬主協会
「北の蹄跡」(通巻第72号)

2024年3月31日発行
編集発行人 岡田牧雄
一般社団法人 札幌馬主協会
〒060-0016
札幌市中央区北16条西16丁目1-1
TEL 011(726)0461



2 札幌馬主協会会員所有馬の蹄跡

委員会だより

6 令和6年通常総会/馬場浄め式/馬頭観音祭/馬場施設調査/愛馬会/馬産地懇談会/馬主研修会
令和5年度施設整備等助成金贈呈式/同実地調査など

15 令和5年度事業報告

19 **特集①** 特別対談「ともに歩んだ70年、そしてその先へ」
日本中央競馬会 吉田正義新理事長

26 会員研修旅行 センテニアル京都競馬場観戦の旅

30 中内田充正調教師講演会「一ホースマンとして」

32 会員懇親会開催

34 創立75周年記念会員懇親会クリスマスパーティ開催

36 **コラム** 「2023年欧米リーディングサイアー検証」
合田 直弘氏

38 **コラム** 「2024年競走馬市場を占う」
須田 鷹雄氏

40 **コラム** 「馬上の景色〜ブリーダーズカップ観戦記」
吉田 直哉氏

42 **コラム** 「JBC競走が行われる佐賀競馬場紹介」
大恵 陽子氏

44 **コラム** 「リアルな競馬に触れる、かけがえない7週間」
坂田 博昭氏

46 **コラム** 「馬産地からの便り〜ダーレー・ジャパンの紹介」
橋本 樹理氏

48 **特集②** リニューアルオープン JRA馬事公苑紹介

52 **特集③** 2023札幌開催回顧

60 札幌競馬場新場長紹介

61 新任職員紹介

64 **会員エッセイ** 「競馬、私の楽しみ方」安原 浩司さん

66 **愛馬談話室** 「夢の実現」了徳寺 健二さん

69 令和5年通常総会

70 令和4年事業報告

74 「開催日数の拡大など」要望書提出

76 **特集④** 札幌記念G1昇格への道

78 道営たより

80 2023年会員所有馬重賞勝利記録

81 会員の異動

82 編集後記

おめでとうございます Congratulations



マイネルグロン *Meiner Grand*

12月23日(土) 中山競馬場

「第146回中山大障害」

- 馬主/サラブレッドクラブ・ラフィアン
- 生産牧場/ビッグレッドファーム(新冠)
- 調教師/青木孝文(美浦)
- 騎手/石神深一

ハードル界に新たなスターの誕生かもしれません。22年春に障害転向3戦目で初勝利を記録すると、23年シーズンはオープン競走2連勝。2度目の重賞挑戦となった東京ハイジャンプでは半年ぶりの実戦だったにもかかわらず障害重賞3勝馬を一蹴し、この日は早め先頭から1番人気に答えるように、同一レース連覇を狙った2着馬を10馬身突き放しました。母はフラワーカップの優勝馬で、おじに中山グランドジャンプ優勝のマイネルネオスがいる血統。この勝利でJRA賞最優秀障害馬のタイトルも併せて受賞となりました。

2018年6月7日生 牡 青鹿毛

	ステイゴールド	サンデーサイレンス
ゴールドシップ	1994 黒鹿毛	ゴールデンサッシュ
2009 芦毛	ポイントフラッグ	メジロマックイーン
	1998 芦毛	パストラリズム
	ブライアンズタイム	Roberto
マイネヌーヴェル	1985 黒鹿毛	Kelley's Day
2000 黒鹿毛	マイネブリテンダー	Zabeel
	1995 黒鹿毛	Giladah



ジャンタルマンタル *Jantar Mantar*

12月17日(日) 阪神競馬場

「第75回朝日杯フューチュリティステークス」

- 馬主/社台レースホース
- 生産牧場/社台ファーム(千歳市)
- 調教師/高野友和(栗東)
- 騎手/川田将雅

米国キーンランド社ジャンユアリーミックスセールで社台ファームが出会ったのは18年レッドカーベットの優勝馬で、本馬の母インディアマントゥアナでした。すぐに日本へ連れてくることなく、当時まだ米国に繋養されていたパレスマリスを配合。生まれたのが本馬です。2歳10月のデビュー戦を快勝し、11月のデイリー杯2歳ステークスは狭いところを割って出て重賞初勝利。この日も好スタートを切るも徐々にポジションを下げ、最後はインから早めに抜け出て後続の追撃を退けました。JRA賞最優秀2歳牡馬のタイトルを受賞しています。

2021年3月21日生 牡 黒鹿毛

	Curlin	Smart Strike
パレスマリス	2004 栗毛	Sherriff's Deputy
2010 鹿毛	パレスルーマー	Royal Anthem
	2003 鹿毛	Whisperifyou dare
	Wilburn	Bernardini
インディアマントゥアナ	2008 鹿毛	Moonlight Sonata
2014 黒鹿毛	Speed Wagon	Tomorrows Cat
	2003 青毛	Rajica



キングズソード *King's Sword*

11月3日(金) 大井競馬場

「第23回JBCクラシック」

- 馬主/ヒダカ・ブリーダーズ・ユニオン
- 生産牧場/日進牧場(浦河)
- 調教師/寺島良(栗東)
- 騎手/J.モレイラ

門別競馬場を結んで、JBC4競走を行う「JBCディ」も回を重ねて4回目。今年は白い砂に入れ替えた大井競馬場での開催となり、その最高峰レース「クラシック」にはJRAからは5頭の重賞勝ち馬含む6頭がエントリーとなりましたが、勝ったのは唯一の重賞未勝利馬。オープン特別を2連勝中だったとはいえ、終わってみれば早め先頭から2着馬に4馬身差。2度目の重賞挑戦でビッグタイトルを手中に収めています。ニッポンダート競馬の層の厚さを感じさせる結果となりました。手綱を取ったJ・モレイラ騎手は外国人騎手として初めてのJBC優勝騎手となりました。

2019年4月4日生 牡 鹿毛

	Old Trieste	A.P. Indy
シニスターミニスター	1995 栗毛	Lovlier Linda
2003 鹿毛	Sweet Minister	The Prime Minister
	1997 鹿毛	Sweet Blue
	キングヘイロー	ダンシングブレーヴ
キングスベリー	1995 鹿毛	グッバイヘイロー
2004 鹿毛	リボンストロベリー	デインヒル
	1997 鹿毛	ハローキティ



永年在籍会員表彰受賞者(在籍20年)

個人会員	
田口 廣氏	吉田 貴俊氏
法人会員	
市川ファーム (代表 市川 久氏)	上水牧場 (代表 上水 明氏)
聖心台牧場 (代表 渡邊 尚典氏)	三石川上牧場 (代表 上山 浩司氏)

札幌馬主協会役員名簿

会長理事	岡田 牧雄
副会長理事	宮永 雅己
	藤原 悟郎
常務理事	木村 貢
	三嶋 昌春
	秋谷 壽之
	小林 正和
	本間 茂 (新)
理事	安原 浩司
	吉澤 克己
	岡田 紘和
	藤原 俊哉
	谷川 貴英
	下河辺隆行
	國分 純
	岡田 隆寛
	吉田 哲哉
宮内 修 (新)	
常任監事	浅沼 廣幸
監事	矢部 道晃 (新)

計算書)は事務局からの説明の後、宮内監事からの監査報告をいただき満場一致で可決、承認。また、「令和5年度事業報告」「令和6年度事業計画書及び収支予算書」が報告されました。

岡田会長は「協会の運営にはみなさまのご協力が何よりも必要。これまでも取り組んできた引退競走馬のセカンドキャリアですが、これまで以上にリ

また、総会終了後の懇親会では札幌競馬場を離れる越智場長ら競馬場役職員も出席いただき、親交を深めました。



岡田会長を再任
令和6年通常総会開催
一般社団法人札幌馬主協会

一般社団法人札幌馬主協会(岡田牧雄会長、会員総数261名)は、2月22日、第13回通常総会(通算第76回)を札幌市内の京王プラザホテル札幌で開催しました。この日は低気圧の影響で大荒れの天気だったにもかかわらず、207名(本人出席28名、委任状提出179名)の方にご参加いただき、無事に終了させることができました。なお、任期満了に伴う役員改選も行われ、岡田会長が再任。当協会が定める定年制により吉田勝巳常務理事が退任し、新役員として監事を務めていただいた宮内修氏が新理事に、矢部道晃氏が監事に選任されたことを、ここにご報告させていただきます。

総会に先立って行われた永年在籍会員表彰では平成15年に入会し、在籍20年となった6名(個人会員2名、法人会員4名)に対して感謝状および記念品が贈られることが事務局から報告されました。岡田会長は「昨年、会員皆様の所有馬は627勝を記録し、予算を大きく上回る競走協力金を得ることができました。感謝申し上げます。今、日本馬は本当に強くなって世界中で活躍しています。先に行われたカタールのアミールトロフィーでは勝つことはできませんでした。出走した3頭が2、4着と上位を占めた。先

その後の総会は、泉敏雄会員、永見貴昭会員を議事録署名人に指名し、岡田会長が議長を務めて進行。「令和5年度貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減

4年ぶり通常開催を前に 馬場浄め式 馬頭観音祭 執り行われる

猛威を振るった新型コロナウイルスが「2類相当」から季節性インフルエンザと同じ「5類」となつて初めての開催を間近に控えた7月19日、札幌競馬場ウイナースサークルにて騎手や愛馬たちの安全、無事の開催を祈願する「馬場



ウイナースサークルで行われた馬場浄め式



馬頭観音碑前で行われた馬頭観音祭

浄め式」が行われました。当協会からは岡田会長が出席。札幌競馬場の越智直弘場長、厩舎関係者からは宮徹調教師、今村聖奈、小林勝太、佐々木大輔騎手、橋本宏和調教師手（本田厩舎）らほか、JRAファシリテイーズの

白木所長、競馬セキュリティサービスの林隊長らが出席。札幌市の三吉神社、佐藤元昭禰宜が白い紙を小さく切った「切麻」をコースに撒いて安全を祈願したのち、祝詞を奏上、神棚に玉串を捧げて安全を祈願しました。

馬場浄め式の終了後はパドック横の馬頭観音碑前に移動して不幸にもレースの事故などで亡くなった馬たちの冥福を祈り、供養する「馬頭観音祭」も行われました。小樽市にある真言宗豊山派成田山不動院の門屋憲明住職の仏事により、岡田会長やJRA職員や厩舎関係者、騎手らが参列し、馬たちへの感謝を示しました。門屋住職からは「日本ダービーではスキルヴィングがレース後に亡くなるという悲しいニュースがありま

した。ほかにも多くの馬たちが競馬場や周辺施設、あるいは牧場で亡くなりました。そんな馬たちに感謝して冥福を祈り、間もなく迎える札幌競馬場が盛況のうちに開催されることを望みます」との言葉がありました。

同競馬場の越智場長は「久しぶりの通常開催。今年は、これまでの最終日に行っていたフリーパスの日を開幕に移動させたほか、様々なイベントを用意して幅広い方々に札幌競馬を楽しんでもらいたいと思います。また、今年は競馬法制定100周年。全国で初めて馬券の発売を再開させたのが札幌競馬場。そういったこともアピールして馬券を楽しんでいただきたい」と開幕を前に決意を述べられました。（協会運営委員会）

馬場施設などを視察 良好なコンディションを確認

開催を間近に控えた7月19日、当協会役員が、札幌競馬場の芝、ダートコースを歩き、馬場施設調査を行いました。出席したのは渉外委員会の小林委員長と下河辺、岡田（隆）、吉田各委員。

日本中央競馬会札幌競馬場施設整備課の沼田課長によると、昨年の札幌競馬終了後、傷みが生じたコース内側を中心に約5



芝コースの視察など行った

も行ったほか、目詰まりを起こしかけていた内柵沿いの砂利ネットについても洗浄を行ったとのこと。これにより排水性の向上が期待できるとのことでした。2023年の雪解けは例年よりも半月ほど早く、また4月以降は平年を上回る気温、日照時間にも恵まれたことから芝の生育状態は良好とのこと。また、ダートコースの砂圧は従来通りの9センチ。この日までに入厩馬たちが日々の調教で使用してきましたが、厩舎関係者や騎手からの苦情もなく、概ね良好とのこと。

出席委員は良好なコンディションを確認したのち、これまでは花卉装飾を行っていなかったパドック2階テラスや検量棟2階テラス、もいわテラスなどの花卉装飾を確認。同施設整備課からは「例年以上に華やかな状態でお客様を迎え入れられるよう準備しています」と説明を受けました。（渉外委員会）

コース別競走中事故発生率

場所	年次	芝コース			ダートコース			合計		
		事故頭数	出走延頭数	事故率	事故頭数	出走延頭数	事故率	事故頭数	出走延頭数	事故率
札幌開催	2019	17	1069	1.59%	24	733	3.27%	41	1802	2.28%
	2020	13	1186	1.10%	15	847	1.77%	28	2033	1.38%
	2021	21	1281	1.64%	23	870	2.64%	44	2151	2.05%
	2022	14	1266	1.11%	17	876	1.94%	31	2142	1.45%
全国平均	2019	285	22510	1.27%	438	23428	1.87%	723	45938	1.57%
	2020	285	22866	1.25%	372	23770	1.56%	657	46636	1.41%
	2021	256	21999	1.16%	409	24248	1.69%	665	46247	1.44%
	2022	280	21939	1.28%	397	23809	1.67%	677	45748	1.48%

「愛馬会」ゴルフコンペを開催

ザ・ノースカントリーゴルフクラブ

56人の頂点に安藤勝己さん

切りなし)で開催しました。

夏の恒例イベント「愛馬会」(ゴルフコンペ)が7月31日、千歳競い合いました。優勝は、ネッ市のザ・ノースカントリーゴルフクラブのザ・ノースカントリーゴルフクラブのスカントリーゴルフクラブで現任は競馬評論家として活躍中の安藤勝己さん。ベストグロス賞はアウト39、藤沢和雄JRAイン36でまわった馬目時宗会員が輝いています。

(事業サービス委員会)



ザーや蛭名正義調教師、C・ルメール騎手、横山典弘騎手ら多くの競馬関係者など56人の方々に参加いただき、ダブルペリア方式(ダブルパーカッ、ハンデキャップ、打



優勝者安藤勝己氏

第19回馬産地懇談会を開催

中内田充正調教師を招いて

日高軽種馬農協の古川雅且組合長、日本中央競馬会日高育成牧場の浮島理場長らを来賓に招き、恒例の馬産地懇談会を10月30日、新ひだか町静内エクリースホテルで開催し、108人の方にご参加いただきました。講師は三冠牝馬リバイアイランドを管理する中内田充正調教師。「一ホースマンとして」をテーマに調教師という立場から、これから競馬サークル全体

で取り組んでいかなければならないことなどをお話しいただきました。岡田会長からは「若く、実績のある中内田調教師がどんなお話をしてくれるか楽しみにしています」とあいさつ。講演会終了後には中内田調教師も交えての懇談会。短い時間ではありましたが、ホテル自慢の料理と会員と会話を楽しんでいただきました。

(事業サービス委員会)



全日本的なダート競走の体系整備について

日本中央競馬会 馬主研修会

中央競馬の取り組みなどについて学ぶ「馬主研修会」が7月19日午後、札幌競馬場4階馬主エリアで行われました。今回のテーマは2022年6月に広報発表された「全日本的なダート競走の体系整備について」。

研修に先立ち、日本中央競馬会の中山由紀夫競走関連室室長は「ダートグレード競走を柱とした総合的な見直しを行ったことで、

ダート競走全体の評価が高まり、ダート適性馬の出走機会、賞金獲得機会の増加が期待できるものとなります。馬主のみならず、とりましても、愛馬の預託先、出走レースの選択先が広がることになりま

すので、この研修会が理解を深めていただくきっかけになれば幸いです」とあいさつ。続いて、同交流競走課の奥田裕之課長からテーマについての内容説明がありました。

奥田課長は平成7年に入会し、おもに競馬番組編成を担当してきたスペシャリスト。この研修会も15年に「重賞競走の格付け管理について」、18年に「世界の競馬と日本の競馬」をテーマにお話をいただいております。

今回のテーマは、これまで芝コースの補完的に行われてきたダート競馬に対して、地方競馬を中心にニッポン全体で盛り上げていこうという施策に関しての説明です。

奥田課長は「現在、日本全国で行われている地方競馬」について、その開催地や主催者、あるいは地方競馬全体の売得金の推移などについて説明したあと、1973年に始まった「地方競馬招待競走」、あるいは77年からの「騎手招待競走」、83年からはジャパンカップに地方競馬所属馬が出走可能となったことなど、簡単に歴史を振り返り、91年の競馬法改正により「中央と地方の連携強調」の方向性が示されたことで、95年からの「ダートグレード競走」「条件交流競走」「芝GI路線の開放」「認定競走」の4施策(いわゆる4本柱)が打ち出されたことなどを解説いただきました。

これら4本柱は、中央競馬、地方競馬といった枠を超えてダート適性馬の年間を通した活躍機会を創出し、全日本的なダート競走体系を構築したほか、中央競馬所属馬の出走機会の確保、あるいは地方競馬の番組充実、サラブレッドの生産振興や地方競馬所属馬の資質向上などに大きな役割を果たしてきましたが、四半世紀という時間が経過する中で、様々な問題点が

顕在化してきたのもまた事実。そのため、監督官庁、日本中央競馬会、地方競馬主催者などが中心となってダートグレード競走に関するプロジェクトチームが20年に立ち上がり、その問題点や改善の方向性などを確認した経緯についてもお話をいただきました。

今回、発表された「全日本的なダート競走の競走体系の整備」は、これらの問題点を解決し「ダートグレード競走をより魅力的で質の高い競走とする」だけでなく「より格の高い国際グレード」の取得を目指すというものです。

「今回の改革は、馬主のみならずはもちろん、生産者、そして主催者のいずれにも大きなメリットをもたらすものと考えられています。新しいダートグレード競走にご注目ください」と締めくくられました。

講演終了後、委員からは「ダート3冠競走の創立は素晴らしいことだが、大井競馬に集中しているのが分散を検討してほしいのと、ぜひ牝馬についても三冠競走を併設して欲しい」という意見が出されました。



(公財) 中央競馬馬主社会福祉財団
令和5年度施設整備等助成金目録贈呈式開催
14 法人・施設に助成金贈呈



公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団(畑山光伸理事長)による令和5年度施設整備等助成金の目録贈呈式を10月13日、札幌競馬場スタンド4階来賓室にて開催しました。今年度は、締め切りを少し早めたところ、22の施設から、8851万円(総事業費1億1840万円)の申請がありましたが、地域性や経営状況等、さらに北海道共同募金会の推薦委員会評価などを考慮して協議を重ねた結果14件3510万円(前年比39万円増)の助成となりましたことを報告いたします。

岡田会長は「目録贈呈式は4年ぶりの開催です。ご出席いただきまして誠にありがとうございます。この助成金は、日本中央競馬会に登録している馬主の所有する愛馬が活躍した賞金の一部が原資となっております。贈呈式にこの場を選んだのは、馬主が競馬を楽しむ場所を、ぜひみなさまに見ていただきたいとの思いからです。皆様からのご希望まで、十分な支援に達していないこともあろうかと思っておりますが、有効にご活用いただけたらと思



経過報告を行った藤原副会長



北海道共同募金会の天羽常務理事

います」とあいさつ。続いて中央競馬馬主社会福祉財団の後藤浩之専務理事からは「当財団は、全国の馬主協会の発意により昭和44年に設立され、これまでに延べ2万9000件、総額1200億円を全国の社会福祉施設などへの助成を行ってきました。今年度は全国393団体 5億5000万円の助成事業を行っております。こうした助成が継続的、安定的に行われる背景には、馬主の皆様方はじめ、多くの中央競馬関係者の尽力により毎週々々競馬が安定的に開催されていることが



中央競馬馬主社会福祉財団の後藤専務理事

あります。昨今は社会福祉へのニーズが増え、また多様化するなかで、民間の皆様のご役割がますます重要となっております。この助成金を大切に、かつ有効的にお使いいただきまますようお願いいたします」とエールが贈られました。

その後、助成事業推薦委員長の藤原副会長から助成金決定までの経緯の報告があったのち、集まった14施設の代表者に岡田会長より目録を贈呈しました。

来賓として出席いただいた札幌競馬場の越智場長は「競馬と社会福祉のつながり」について述べられ、また社会福祉法人北海道共同募金会の天羽啓常務理事からは「馬主の皆様方の思いが込められた貴重な財源が有効に使

われ、道民のみならずが安心して暮らしていけるよう、また助成金の価値をより高めてくれるような使い方をされることを期待します」とお言葉をいただきました。

当協会単独助成は2施設
設3団体へ

また、札幌馬主協会の単独事業として行っている社会貢献事業は、2施設、3活動に対して助成金、協賛金が贈られたほか、緊急支援事業として、日高東部地区の大雨被害による見舞金を2会員にお渡ししたことをご報告いたします。

(社会貢献委員会)



14 施設に対して目録が贈呈された



札幌馬主協会単独助成金目録贈呈式に出席した2施設の代表者と担当委員

(公財) 中央競馬馬主社会福祉財団 令和5事業年度 施設整備等助成金交付先一覧					
番号	法人名	法人所在地	施設名	施設の種類	要望物件
1	(福) 南幌福祉会	空知郡南幌町	南幌みどり苑	通所介護	ボイラー更新工事
2	(福) 北海道療育園	網走郡美幌町	美幌療育病院	重症心身障害児入所施設	特殊浴槽
3	(福) 平取福祉会	沙流郡平取町	ケアハウスしずか	軽費老人ホーム	ボイラー更新工事
4	(福) ポロシリ福祉会	河西郡中札内村	中札内恵津美ハイツ	特別養護老人ホーム	介護ベッド
5	(福) 札幌恵友会	札幌市中央区	つばさ	障害者支援施設	福祉車両
6	(福) 旭川水芝会	旭川市	サンハイム	老人デイサービスセンター	特殊浴槽
7	(福) 湯らん福祉会	旭川市	永山園	特別養護老人ホーム	福祉車両
8	(福) 北海道仕愛会	北見市	憩い	老人デイサービスセンター	特殊浴槽
9	(福) 川東の里	北見市	フレンズ	就労継続支援B型	ラジコン草刈機
10	(特非) ワラウキ	江別市	わらいち	就労継続支援B型	福祉車両
11	(福) 道北センター福祉会	名寄市	道北ワークセンター	就労継続支援B型	除雪機
12	(福) 恵正会	恵庭市	恵庭	就労継続支援B型	送迎車両
13	(福) タンポポのはら	石狩市	ギャラリーヴィン	生活介護	送迎車両
14	(特非) ひなた	札幌市北区	きどこ・きどこ	生活介護	送迎車両

令和5年度 (一社) 札幌馬主協会社会貢献事業

番号	法人名	法人所在地	施設名	施設の種類	要望物件
1	(社福) 北海道いのちの電話	札幌市中央区	北海道いのちの電話	電話相談	パソコン
2	浦河ポニー乗馬少年団	浦河町	浦河ポニー乗馬少年団	乗馬スポーツ少年団	ポニー、馬具一式

実地監査報告

公益財団法人 北海道盲導犬協会



前列は、盲導犬協会のPR犬グレンとツキ
後列左から谷川委員、藤原副会長、盲導犬協会訓練所の和田孝文所
長、三嶋委員長、岡田委員、同協会普及啓発担当次長の角田さん



購入した車両

令和5年9月15日、藤原副会長、三嶋委員長ら4人の社会貢献委員が札幌市南区の「公益財団法人北海道盲導犬協会」（伊藤信賢会長）を訪問し、助成事業の実地監査を行いました。

北海道盲導犬協会は、昭和45年11月、盲導犬の育成と視覚障がい者への盲導犬貸与などを目的に、札幌市福祉センター職員や、視覚障がい者へのボランティア活動を行っていた総勢7名の若者によって立ち上げられました。現在は30人の職員で前記事業のほか引退した盲導犬たちのための老犬ホーム、あるいは視覚障がい者が自立して日常生活を過ごせるよう点字訓練、白杖歩行訓練などの生活訓練も行っています。

一般的にはあまり知られていませんが、盲導犬はサラブレッド同様に厳格な血統管理がされています。使用されるのは、おもにラブラドルレトリバーやゴールデンレトリバー、あるいはその交雑種などですが、両親のいずれもが協会に登録されている個体に限るそうです。犬の妊娠期間は約2か月強。年間、約70頭の候補犬たちが繁殖犬飼育ボランティアの家庭で産声をあげ、生後約50日になると、家族の一員として1才まで育ててくださるパピーウォーカーに預けます。名前はパピーウォーカーに付けてもらい、多くの経験と愛情を受けて育つことで、人に優しい盲導犬の基礎ができます。約1年後、子犬たちは訓練所に戻り盲導犬としての適性評価を受け合格した犬が約7ヶ月の訓練プログラムに進みます。犬を盲導犬として訓練するのではなく、盲導犬としてより適性のある犬を見つけ、その適性を伸ばし育てること。こうして育てられた盲導犬が視覚障がい者の素晴らしいパートナーとなるのです。最終的には5～10頭程度が盲導犬として認められるそうです。北海道盲導犬協会の角田修一さんによれば「盲導犬貸与の申し込みは年間12件ほどで、訓練を終えた頭数とほぼ合致しますが、盲導犬を希望される方との面接で得た情報や希望をもとに、どのような性格の犬が希望者の候補犬としてふさわしいかマッチング会議が行われます。人間にも1人1人に個性があるように、犬の個性も千差万別です。約10年間、盲導犬と共に順調な生活を送っていただくためにとても重要な会議になります。相性の良い盲導犬と巡り合うためにお待ちいただくこともしばしば」だそうです。

このような協会は全国に11あるそうですが、北海道盲導犬協会は全国で唯一積雪地帯にある協会ですから、ここを巣立っていく犬たちは北海道内をはじめ道外の降雪地域にも貸与されています。今回、助成の対象となった車両は、盲導犬としてデビューを決定した犬が、視覚障がい者（ユーザー）とともに犬と人との4週間の共同訓練に使用されます。盲導犬を申し込んでくるのは札幌近郊よりも、むしろ遠隔地の方が多いそうで、その方たちの送迎や、逆にその方たちが暮らす地域で訓練をするために使用されるそうです。同協会の角田さんは「盲導犬を持つのがゴールではなく、持ったあとに受入拒否に合わない社会になり、社会参加していくのが目的としています。残念ながら一部飲食店など、いまだに理解が浅いところがあります。いろいろな活動を通して、理解を深めていきたい」と更なる発展を願っています。

関係書類、経理処理についてはすべて適正であることを確認し、視察を終えた藤原副会長は「目にすることすべてが初めてで驚きました。助成金は有効に使ってもらえると思う」と感想を述べ、三嶋委員長は「名前は盲導犬かもしれないけれど、人間に貢献してくれた犬たち。そういう犬を引き取りたいと願う人がたくさんいる事に感銘を受けました。大事な事業だと思うので、多くの人に理解してほしい」と実地監査を振り返りました。

令和5年度事業報告

1. 総会

通常総会

日時 2月22日（水）15時30分

場所 京王プラザホテル札幌

議題（決議事項）

議案第1号

令和4年度貸借対照表及び損益計算書

（正味財産増減計算書）の承認

（報告事項）

報告事項1 令和4年度事業報告

報告事項2 令和5年度事業計画書及び

収支予算書

出席者 184名（本人出席28名、委任状156名）会員総数250名

議題（1）「札幌馬主協会創立75周年記念事業について」など5議題

議案第1号

第2回協会運営委員会

日時 2月22日（水）14時

場所 京王プラザホテル札幌

議題（1）「通常総会について」

など3議題

第3回協会運営委員会

日時 10月27日（金）中間監査終了後

場所 札幌馬主協会事務室

議題（1）「本年度の委員会事業経過について」など9議題

3. 理事会

第1回理事会

日時 1月20日（金）12時30分

場所 京王プラザホテル札幌

議題（1）「札幌馬主協会創立75周年記念

事業について」

（2）「令和4年度事業報告並びに貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計画書）の承認について」など8議題

第2回理事会

日時 2月22日（水）14時30分

場所 京王プラザホテル札幌

議題（1）「相談役の委嘱について」

など6議題

第3回理事会

日時 5月18日（木）12時

場所 札幌競馬場会議室

議題（1）「札幌競馬開催について」など

10議題

第4回理事会

日時 7月19日（水）13時

場所 札幌競馬場4階馬主エリア

議題（1）「新入会員の入会の承認につ

2. 協会運営委員会

第1回協会運営委員会

日時 1月19日（木）最終監査終了後

場所 札幌馬主協会事務室

いて」など8議題

第5回理事会

日時 11月2日(木)12時

場所 京王プラザホテル札幌

議題(1)「令和6年度事業計画及び収支

予算案について」など10議題

異動に関すること、会報「北の蹄跡」の発行、寄贈賞(札幌馬主協会会長賞)並びにホームページの運用などについて協議しました。

開催日・5月18日(木)・11月2日(木)

協会社会貢献事業について協議しました。

開催日・1月20日(金)・11月2日(木)・12月18日(月)

また、(公財)中央競馬馬主社会福祉財団助成金の推薦を行う同助成金推薦委員会を2回開催しました。

第6回理事会

日時 12月4日(月)16時30分

場所 札幌グランドホテル

議題(1)「令和6年度事業計画書(案)

及び収支予算書(案)の承認について」など6議題

(2) 事業サービス委員会
事業サービス委員会を6回開催し、委員会に係る予算・決算、会員懇親会、愛馬会、会員研修旅行、馬産地懇談会および創立75周年記念会員懇親会の実施について協議しました。

開催日・4月20日(木)・5月18日(木)・7月5日(水)・8月19日(土)10月5日(木)・11月16日(木)

(3) 社会貢献委員会

社会貢献委員会を3回開催し、委員会に係る予算・決算、(公財)中央競馬馬主社会福祉財団助成金及び札幌馬主

開催日・7月21日(金)・10月13日(金)(公財)中央競馬馬主社会福祉財団助成金決定額3501万円(14施設)
札幌馬主協会社会貢献事業
助成金180万円(2施設)
協賛金13万5000円(3活動)
緊急支援事業 日高東部地区大雨被害による見舞金20万円(2会員)
また、3件の助成施設実地監査を行いました。

4. 各委員会の開催

(1) 総務・広報委員会

総務・広報委員会を2回開催し、委員会に係る予算・決算、会員の入会及び

4) 渉外委員会

渉外委員会を2回開催し、委員会に係

る予算・決算、会員還元事業(ビュッ

フェご利用券など)及びビュッフェを

含む馬主エリアの円滑な運用などにつ

いて協議しました。また、馬場施設調

査の実施及び随時札幌競馬場や札幌グ

ランドホテルとの打合せを行いました。

開催日・4月20日(木)・11月2日(木)

馬場施設調査 開催日・7月19

日(水)

担当副会長、正副委員長とJ R

A 札幌競馬場・札幌グランドホ

テルとの意見交換会

開催日・4月12日(水)・7月6日(木)

(1) 寄贈賞贈呈(総務・広報委員会)

第1回札幌競馬 エルムステークス競走

(GⅢ)(8月6日)

第2回札幌競馬 札幌記念競走(GⅡ)(8

月20日)

第2回札幌競馬 キーンランドカップ競走

(GⅢ)(8月27日)

第2回札幌競馬 農林水産省賞典札幌2歳

ステークス競走(GⅢ)

(9月2日)

(4) 会員馬優勝記念品(総務・広報委員会)

日本中央競馬主催競走において、会員

所有馬が優勝(第1着)した会員代表

者に記念品を贈呈。勝利数627勝。

(5) 愛馬会(事業サービス委員会)

日時 7月31日(月)12時04分スタート

場所 ザ・ノースカントリーゴルフクラブ

参加者 56名

(6) 会員懇親会(事業サービス委員会)

日時 8月27日(日)18時

場所 京王プラザホテル札幌

芸能 夏川りみ

参加者 226名

(5) 競馬振興特別委員会

競馬振興特別委員会を1回開催し、委

員会の予算・決算、ホッカイドウ競馬

への支援について協議しました。

開催日・11月2日(木)

(3) 永年在籍会員表彰(総務・広報委員会)

永年(20年)在籍会員(平成14年入会

者2会員)

フジワラ・ファーム 様

丸村村下ファーム 様

(7) 会員研修旅行(事業サービス委員会)

「京都競馬観戦の旅」

日時 10月7日(土)～9日(月)

場所 京都競馬場ほか

参加者 64名

5. 事業の概要(所管委員会)



01
特集

特別対談

「ともに歩んだ70年、 そしてその先へ」

日本中央競馬会 新理事長 吉田正義
札幌馬主協会 会長 岡田牧雄

新型コロナウイルスの感染症法上の分類2類相当から、「5類」に引き下げられ、競馬場にも賑わいと歓声が戻ってきました。また、2024年は日本中央競馬会創立70周年、そして夏には札幌でアジア競馬会議が開催され、また全日本的に整備されるダート競走が初年度を迎えます。成長を続ける日本中央競馬会のこれからについて、岡田会長が吉田新理事長に聞いた。

岡田牧雄札幌馬主協会会長(以下、岡田)…まずは、理事長就任おめでとうございませう。年明け早々から日本中で目を覆いたくなるような災害や事故が続いています。2024年はJRA日本中央競馬会創立70周年という節目の年になります。私どもとしては、競走部長や中京競馬場長などで現場を知る吉田新理事長の手腕には大変期待するところです。

吉田正義日本中央競馬会理事長(以下、吉田)…ありがとうございます。昨年9月に理事長職に就きましたが、その責務の重さを実感しております。今年からは年初から大きな自然災害があったところであり、まずは能登半島地震により被災された方々に対して心からお見舞い申し上げます。

岡田…石川県は金沢競馬場がありますし、胆振東部地震からまだ日も浅く、同じ被災者として決して他人事とは思えません。

(8) 馬産地懇談会(事業サービス委員会)

日時 10月30日(月)17時

場所 静内エクリプスホテル

講師 調教師中内田充正氏

進行 岡部玲子氏

参加者 108名

(11) 会員還元事業(渉外委員会)

①「ソフトドリンク券」の配布(来場1日につき、1会員4枚/札幌競馬開催日)

②「ビュッフェ利用券」の配布(札幌競馬開催期間中を通じ1会員5枚)

開催期間中を通じ1会員5枚)

(12) ホッカイドウ競馬への支援

(競馬振興特別委員会)

①北海道への支援 1350万円

②ホッカイドウ競馬支援室への支援

50万円(日高町へ寄附)

(14) 引退名馬繋養展示事業への支援

(1) (公財) ジャパン・スタッドブック・インターナショナルへ寄附 50万円

インターナショナルへ寄附 50万円

(15) 札幌競馬場主催行事等寄贈協賛

①札幌競馬場内花装飾

(札幌競馬場エントランス、ハナミチ等)

等)

②BOXティッシュ

(ファンサービス用)

③札幌競馬場プロモーション用グッズ

(カードケース)

④札幌競馬場エントランス・側面ガラス

装飾

⑤札幌競馬場4階馬主エリア ビュッ

フェ備物品

⑥馬場浄め式 7月19日(水) 11時

馬頭観音祭 同日 11時30分

特別対談



がどのくらいになるのか考えたうえで、トレセンの馬房などの施設整備やシステム整備を行っています。また、レース数を増やしても下級条件ばかりにならないか、お客様の購買動向がどうなるのかなどといった点も考慮すると、そう簡単ではないと思います。

岡田…開催期間が短いと、まだ体力がつききっていない2歳馬はローテーションが組みにくいという話もあります。また、世界に目を転じればどの国でも競馬の中心は生産地です。そういう意味では、日本では、いわゆる4大場が偏重されていると感じることがありますが、その

はいえ2011年に2兆2000億円台まで落ち込んだ時はどうなるかと思いましたが、本当に良かった。当時は経営企画室長だったこともあり、ほっとしています。これもイクイノックス、リバティア일랜드、そしてタイトルホルダーのおかげです(笑)。

岡田…今日は、耳の痛い話もあろうかと思いますが、どうぞよろしく願います。で、早速ですが札幌、そして函館馬主協会の悲願でもあります北海道シリーズの開催日数拡大と番組の充実について、新理事長のご意見を伺いたいと思います。これは、もう何年も前から要望しているところで、私どもだけではなく札幌市、函館市、および両市の商工会議所観光協会からも同じような意見が出されています。

吉田…開催日割に関しましては、JRAの経営が非常に厳しい時代に北海道シリーズも含めて夏競馬の開催を見直しました。また、その一方で、近年では気候変動の激化に伴い、暑熱

あたりは、いかがでしょうか。
吉田…日本の競馬は生産と競走の好循環がお客様の支持を受けていると考えています。北海道での競馬開催は、馬産地の魅力を外に発信する重要な場と位置付けておりますので、時々的情勢を踏まえながら見直していくことも必要と考えております。

岡田…ありがとうございます。それと、もう一つ。現在、ジャパオンカップが国際招待競走としてはその役割を果たしているとは考えにくい面があります。今、日本の馬が世界中で活躍する時代になって海外の馬が日本の競馬にチャレンジできるレースがないというのが国際的に問題になりつつあるような気がします。これは札幌競馬場にこだわっているわけではなく、どこの競馬場でもよいのですが、現実的に考えると札幌しかないと考えます。そこで、札幌競馬場で行われている4つの3歳以上重賞をすべて国際招待競走にしてはどうかという提案です。

対策が見逃せないテーマとなったために2020年に開催日割の見直しを行い、北海道の日数については、24日から26日に増やしております。

岡田…それは理解していますし大変ありがたいことと思っておりますが、かつては32日あったわけですから、私たちの立場からは、まだ物足りなさもあります。

吉田…現実的な問題として以前のように4回中山、4回阪神と同時に北海道シリーズを行うと、出走頭数確保という意味で難しい面もあります。もちろん、ご提案を全否定するつもりはないのですが、これは競馬法



吉田正義

(よしだ まさよし)
1958年、群馬県出身。早稲田大学卒。1983年日本中央競馬会に入会。総合企画部経営企画室長、中京競馬場場長、競走部長など歴任。2016年より理事長。21年常務理事、23年副理事長、同9月12日付けで日本中央競馬会第16代理事長に就任。

令で年間の開催日数が288日と制限されている中で、開催スケジュールを見直すというのはなかなか難しいものがあると思っております。

岡田…年間の開催日数については競馬法令を改正すれば問題ないという意見もありますが、そういう意見はどのように思えますか。

吉田…そういった声があることは承知しております。この開催日数288日について、私が諸先輩から教わってきたことは、賭事機会の徒な拡大の抑止、地方競馬への配慮があるということと、競馬会は、長年その開催規模を上限と捉えて、在厩頭数

吉田…北海道シリーズの競馬番組について様々なご提案をいただいております。感謝申し上げます。言うまでもなく、札幌は北海道の中心地であり、また国際的にも知名度の高い観光都市です。そこで国際シリーズを展開することは、非常に魅力的なご提案と受け止めておりますが、現実的には、この時期に招待に応じる有力な外国馬がいるのかといった問題や、検疫と調教を同時に行える場所の確保、あるいは公開調教などを行う際のメディア対応、費用対効果などクリア

しなければならない問題もたくさんあるわけです。ワールドオールスタージョッキーズの開催に合わせて同一週開催という話も聞きますが、毎週ある重賞競走を楽しみにしているお客様もたくさんいらっしゃるわけで、そういった興行的な側面も無視できないところです。

岡田…今年アジア競馬会議が札幌で開催されます。過去4回は東京で行ってきましたが、参加者からの意見で北海道になったと聞いています。やはり、世界基準では競馬の中心は生産地だと思います。馬産地と最も近い競馬場で国際招待競走を行うのは自然なことだと思います。

吉田…日本の競馬産業全体にとって、世界中の競馬関係者から馬産地で北海道が注目いただいているのは喜ばしいことです。アジア競馬会議が行われるこの機会に日本の馬産地北海道の魅力をより発信すべく色々と考えております。

岡田…世界中の競馬関係者が目覚ましい発展を遂げている日本



特別対談

の生産地に興味を持って聞いていると聞いています。ぜひ、よろしくお願ひいたします。さて、それからこれは私どもだけではなくファンの間でも議論になっている札幌記念のGI格上げについてです。先ほども話が出ましたが、馬産地ともしっかり近い競馬場である札幌で、ぜひGI競走をとというのは我々の悲願でもあります。

の生産地に興味を持って聞いていると聞いています。ぜひ、よろしくお願ひいたします。さて、それからこれは私どもだけではなくファンの間でも議論になっている札幌記念のGI格上げについてです。先ほども話が出ましたが、馬産地ともしっかり近い競馬場である札幌で、ぜひGI競走をとというのは我々の悲願でもあります。



雨の中開門を待つ多くのファン

しているところですが、夏季期間は一流馬にとっては休養、調整時期に充てられている傾向にあると認識しています。また、札幌記念は、天皇賞・秋、あるいは凱旋門賞、ジャパンカップなどを目指す馬にとっては、そのステップレースという位置づけにあるレースと考えていますので、最高峰レースとして位置付けることには、どうなのかなという思いがあります。

岡田 GI競走は競走体系の根幹であると同時に、その国の競馬レベルを象徴するものという考え方もあります。今、日本の馬は世界一です。そういう馬を生産している国としてはGI競走が少なすぎるとするのが私どもの考え方です。

吉田 会長がおっしゃるとおり、本年1月に、2023ロンジンワールドベストホースにイクイノックスが、ベストレースに第43回ジャパンカップが選出されました。私としては、第1回、第3回ジャパンカップで日本馬が歯が立たなかったことが強烈な

印象として残っており、今回の表彰は、馬主さん、生産者さん、厩舎関係者等の努力の結晶として感慨深いものがあります。海外の競馬関係者からは、日本馬が強くなった要因や日本の競馬の成功事由を問われることが多いです。例えば、昨年、レーシングポスト紙において、英愛仏はGI競走が多すぎて有力馬が分散するうえに少頭数になるから、日本の競走体系を見習ってGI競走を減らそうといった記事も出ていました。

岡田 それは、日本の馬の方が強くなったからではないでしょうか(笑)。冗談はともかく、引き続きよろしくお願ひいたします。

岡田 それから、これも国際的に大きな問題になっている「引退競走馬のセカンドキャリア問題について」です。近年ではずいぶん意識が変わってきたと思います。馬主協会としても積極的に取り組んでおりますが、JRAにもお力添えをお願いした

やってくる働き手不足対策としても有効だと考えます。**岡田** 私もそう思います。いろいろな考え方もあります。いろいろ、そういう活動にも目を向けて、何かしらのインセンティブを与えていただくと、裾野が広がっていくと思います。

吉田 そうだと思います。ただ、この問題はサークル全体で考えていかなければならないというのは大前提ですが、セカンドキャリアを考える中で難しいのは中央競馬で活躍した馬でも、キャリアの最後は地方競馬で終わ



提供写真/全国乗馬倶楽部振興協会



馬場馬術(加藤諒選手・プラストワンピース号) 所属:ノーザンホースパーク 提供写真/全国乗馬倶楽部振興協会

いところでは。

吉田 この問題は、競馬サークル全体で取り組むべき課題として、平成29年12月に馬主、厩舎関係者、生産者、監督官庁である農林水産省、中央競馬および地方競馬の各代表者からなる「引退競走馬に関する検討委員会」を立ち上げ、定期的に審議、検討を行い、取組みを進めているところです。また、この春には一般財団法人を立ち上げて、もう一歩踏み込んで検討と実践を進めていく計画です。

岡田 これまで行ってきたような人や施設に対する助成ももちろん馬も多い。そういった馬のこともしっかりと考えなければなりません。

岡田 馬を助けていくのは大事ですが、そのためには人を育てなければならぬ。今は助成の対象がJRA重賞勝ち馬、ダートグレード優勝馬に限られていますが、たとえタイトルを持たなくてもやはりファンが多い馬は大切にしなければと思えます。そのためには、まだまだ場所も人も足りないと思えます。もちろん、現実的にはすべての馬を救うことは難しいというのは重々承知しています。

吉田 まずは、引退競走馬をしっかりリトレーニングして全国の乗馬クラブへ送り出す。そうした中で底辺を広げていく。受け皿がたくさんできてくれば、また動きが変わってくると思います。

岡田 セカンドキャリアの問題は、突き詰めていくと乗馬の普及ということになると思いますが、例えば、北海道に遊びに来て、馬産地で乗馬をしたいと思

「養老・余生等の支援」「セカンドキャリア促進のための諸施策の実施」などに加え、「馬の福祉」全般についても取り組むほか、宇都宮事業所において、乗用馬に転用するための初歩的な対応等を目的とする「一時預かり・休養施設」の運営などを行う予定だと思えます。今後、間違いなく

ろん必要で、ありがたいと思っていますが、より多くの馬に対しても行き届くようなシステムが必要ではないかなと、そう思っています。それと、この問題は「セカンドキャリア」と「サードキャリア」ともいえるべき養老余生に分けて考えなければならぬと思います。少々手前みそになりますが、マイネルダビデはJRA重賞勝ち馬として最高齢まで頑張ってくれましたし、オールドスタッフという繁殖牝馬は、繁殖生活引退後も36歳まで面倒を見ていました。こういう馬を扱うことでスタッフの意識も変わってきます。

定です。養老余生については人材確保も含めてたくさんのお受け皿が必要になりますので、まずはできるところからスタートしようと思っています。**岡田** 現在の状況は馬主含め引退馬に対して前向きな活動をしている人は多くなっています。が、経済的に続かないケースもある。安心してバトンを渡せる場所ができれば馬主の意識も変わると思います。その施設はどれくらいの規模を考えているんですか。

吉田 宇都宮の施設規模では、一時預かりの上限は30頭くらいになります。これから募集を行います。こういった取り組みは初めてですので、様々な検討や検証を行いながら、受け入れ態勢を整えていきたいと考えています。

岡田 北海道では引退養老馬を使った人材育成も行っています。

吉田 それは、素晴らしい活動だと思えます。今後、間違いなく



提供写真／全国乗馬倶楽部振興協会

対応や馬の福祉に資するガイドラインの整理・策定等に取り組むこととしております。

岡田…とくにサードキャリアともいべき養老余生馬の扱いなどについて、JRAとしてモデルケースを示してもらうことも必要ではないかと思えます。どうぞ、よろしく願います。

岡田…それから、今も少し話が出ましたが人材育成。これは、競馬産業に限った話ではないと思えますが、今後の競馬産業を考

えらううえで大きなテーマになると思います。今回、前川恭子さんというJRAとしては初めてとなる女性調教師が誕生しました。

吉田…この問題は命をどう扱うかということになると考えています。私どもとしては「引退競走馬のセカンドキャリア促進」が最も効果的であるとの判断のもと、より具体的な施策の実施等を進めるとともに「高齢・引退馬対策」(養老・余生問題)への

対応…人口の半分が女性なので、今後の成人人口を考えたときに女性の進出は自然な流れだと考えています。現在、JRAのトレセン厩舎従業員は2377人で、そのうち女性は32人です。外国人はおりません。

岡田…例えば北海道浦河町のBTC軽種馬育成調教センターで

働く外国人は半数以上。ホッカイドウ競馬も3分の1が外国人労働者です。JRAは今後も、女性を含めた純日本人体制で行っていくのか、それとも外国人の登録を考えているのか、そのあたりはいかがでしょうか。

吉田…私も、外国人だから女性だからと差別するつもりはないのですが、せつかく日本の馬が強くなっているわけですから、雇用を重視するあまり働き手のレベルが下がらないよう願っています。

吉田…人口の半分が女性なので、今後の成人人口を考えたときに女性の進出は自然な流れだと考えています。現在、JRAのトレセン厩舎従業員は2377人で、そのうち女性は32人です。外国人はおりません。

岡田…今、生産地では女性の雇用が増えていると聞いています。JRAでも同じように女性が働ける場所を模索し、そのような場所を用意したいと思

います。要は、適材適所だと思えます。現在、競馬場で活躍している女性ジョッキーや、前川新調教師のようなケースはレアケースだと思えます。

吉田…生産地は外国人も、女性も増えています(笑い)。今、競馬場で活躍している女性ジョッキー

吉田…今後、人口が減少していく中で女性の活躍は不可欠ではないでしょうか。

岡田…それから、最後になりませんが今年から本格的にスタートするダート3冠路線についてです。JRAはダート競馬について、どのようなお考えをお持ちでしょうか。

吉田…これはわかりませんが、やはり多くの人が注目するのは中央競馬です。中央競馬の馬主は、

方競馬にダート競走の中心的役割を担っていただき、さらに日本の競馬を発展させていこうという趣旨です。

岡田…私は、これから日本産、日本調教馬が目指す先はアメリカ競馬だと考えています。そういう意味でダート競馬が軽視されるような考え方には少々違和感を覚えるところです。

吉田…決してダート競馬を軽視している訳ではありません。今までなかった全日本のダートの3歳3冠路線を地方競馬と一緒に緒になつて整備する、その3冠競走を地方競馬の競馬場で実施するということ。288日間という決められた開催時間の間で両方を充実させることはできません。地方競馬場は芝コースを持たない競馬場がほとんどなので、今回のような形になったことはご理解いただきたいと思

います。岡田…それはわかりますが、やはり多くの人が注目するのは中央競馬です。中央競馬の馬主は、

吉田…障害競走については、まず障害馬を作ることからスタートしなければなりません。現状では現役ジョッキーが調教段階から教え込んで聞いている、障害競走の存続には障害ジョッキーの安定的な確保が大切と考えています。

吉田…それは理解できますが、例えば海外には優秀な障害専門ジョッキーがたくさんおります。彼らをエクササイズボーイ、いわゆる調教助手兼障害ジョッキーとして起用することは、働き手、担い手不足を解消するうえでは有効だという意見もあります。すでに障害競走は騎手不足によって番組が組めなくなりつつあります。このままでは障害レースが無くなってしまいうのではないかという危機感さえ抱いております

吉田…障害に限らず、馬を扱うための技術の研鑽と承継はやはり重要だと考えています。その他、受け入れる側にも準備が必要だと考えていますし、クリアしなければならぬ問題は多いと思います。JRAとしては外国人に限らず、短期での入れ替わりを想定した雇用に偏重しすぎないように、職種ごとのバラン

吉田…頂点を決めるという意味では、これまでのダートグレード競走がそうであったようにJRAと各地区のトップホースが覇を競いあうことが理想であると考えています。これを機会に歴史ある地方競馬の競走も理解いただき、ともに発展させていきたいと思います。中央競馬におきましては、引き続きGIのフエブラリーステークスやチャンピオンズカップを中心に、現状のダート競馬の水準を維持しながら、日本競馬全体の底上げを図ってまいりたいと考えています。岡田会長とは、こうした問題など日本の競馬産業全体の発展に向けてもっとお話ししたいですね。

岡田…わかりました。今回は時間が無くなってしまいました。が、いつかこの続きをお願いしたいと思えます。今日はどうもありがとうございました。



吉田…これからの、芝とダートの番組上の比率は概ね半々で変更ありませんが、これからは地

岡田…これはわかりませんが、やはり多くの人が注目するのは中央競馬です。中央競馬の馬主は、

岡田…わかりました。今回は時間が無くなってしまいました。が、いつかこの続きをお願いしたいと思えます。今日はどうもありがとうございました。



会員研修旅行



センテニアルパーク 京都競馬観戦の旅

2023年は会員研修旅行として、2025年に開設100周年を迎えるにあたり、スタンドの全面改築はじめ、厩舎地区、コースの路盤整備工事を終えた京都競馬場の視察と、京都競馬観戦の旅を行いました。

京都競馬場は、1907（明治40）年に現在の京都市下京区島原に開設された島原競馬場をその起源とします。その後、現在の京丹波町への移転を経て、1925（大正14）年に京都市伏見区葎島渡場島町に新競馬場が開設されて、現在に至ります。

今回の大規模改修は、総工費880億円。2020年11月から2023年3月まで、約2年5か月かけて行われ、新装なったスタンド「ゴールサイド」は高さ34m、地下1階、地上7階建てで、総床面積は約5万5000㎡。パドックは従来の円形から楕円（だえん）形に様変わり、2階部分には360度パドックを取り囲むパドックリングを新設。また、旧パドック跡地には史上初めて父仔三冠を達成したコントレイルの像が飾られたほか、ビジョンの裏側には歴代の3冠馬・3冠牝馬、14頭の馬像がずらりと並ぶ「三冠馬メモリアルロード」も設けられ、ファンの目を楽しませていました。

今回の研修旅行に参加いただいたのは岡田会長以下64人。一行は日本航空と全日空に分乗し、午前11時には大阪伊丹空港へ到着。そこから合流する方々を含めてバス3台に分乗し、新装された京都競馬場を目指します。到着後は、用意いただいたゴールサイド5階エリアの出走馬・馬主サロンから観戦させてもらいました。この日、京都競馬場では第8競走3歳以上1勝クラスで当協会会員社台レースホース所有のシユタールヴィント号が勝利したほか、メイン競走のオースン特別「藤森ステークス」では下河辺牧場生産のサンライズアムール号がゴール前で鮮やかに抜けだして5勝目を記録しています。

一行は、11R終了後、宿泊ホテルのグランヴィア京都へと向かいます。懇親会では京都馬主協会の大八木信行会長ご夫妻ほか、第2回京都競馬開催委員長の菊田敦日本中央競馬会理事にも出席いただき、京都競馬場の松田恵作場長、前札幌競馬場場長で、現在は栗東トレーニンク・センターの飯島裕之場長や、越智直弘札幌競馬場場長にもご出席いただきました。改めて、御礼申し上げます。



翌8日は3つのコースに分かれて、前日に引き続き、京都競馬場でレース観戦を行う人、「奈良と宇治平等院めぐり」を楽しむ人、あるいは世界遺産にも登録されている「比叡山延暦寺と大原三千院」をめぐる人など。それぞれが思い思いに京都、奈良を楽し

みました。
法相宗の大本山寺院にもなっている興福寺にある五重塔は奈良のシンボルにもなっており多くの観光客が足を運ぶ名所であり、また極楽浄土を再現したともいわれる平等院鳳凰堂は平安京の趣を感じる世界遺産でもあります。
比叡山延暦寺の東塔にある根本中堂は、延暦寺最大の仏堂であり、総本堂。建物は国宝に、廻廊は国重要文化財に指定されている歴史的名所です。また京都大原の料理旅館「芹生」では昼食に自慢の料理を堪能しました。
この日の夕食は、ホテルがらほど近い料亭左阿彌の懐石料理。伝統の味と、芸舞妓の華やかな舞を楽しみました。
また、最終日も3つのコースに分かれて秋の京都、奈良を楽しみました。この日、競馬場では京都大賞典が行われましたが、レースを待たずに競馬場を後にしなければなりません。それでも前日を上回る多くの人が京都競馬を観戦しています。
ほかには東山文化を代表す

る銀閣寺（慈照寺）から哲学の道を通って南禅寺へとめぐるコースと、京都御所から高台寺、そして二年坂と京都風情をご用意しました。
銀閣寺は世界遺産にも登録されており、東山文化を代表する寺院でもあります。その名のとおりに決して派手ではありませんが、心に残る名所です。
また京都御所は平安時代時代から明治維新まで天皇家が住居として使用していた宮殿です。紅葉には少しだけ早かったです。それでも部屋を飾る襷絵や季節ごとに異なる表情をみせてくれる庭園を堪能いただけたと思います。
最終日の昼食は、どちらのコースを選んで京都の文化、伝統を受け継ぐ「湯豆腐」をお召し上がりいただきました。
そして大阪伊丹空港から新千歳空港へ向かい、無事帰途につきました。
ご参加いただいたみなさま、本当にありがとうございました。そして、お疲れまでした。



馬産地懇談会

「一ホースマンとして」



調教師 中内田 充正
プロフィール

1978年生まれ、滋賀県出身。
2006年JRA競馬学校厩務員課程入学、07年4月より厩務員(橋田満厩舎)同年5月調教助手(橋田満厩舎)。2012年調教師免許取得、栗東トレーニングセンターにて開業。2017年JRA賞最高勝率調教師、19年同最高勝率調教師、優秀技術調教師。21年、22年同最高勝率調教師。

本日は、貴重な機会をいただきましたこと、本当にありがとうございます。札幌馬主協会の方々は生産者、育成牧場の方が多いと思います。競馬産業の発展のために、今の課題について1人の調教師、1人のホースマンからの視点でお話させていただきたいと思えます。

まず、最初は世界的にも大きな話題となっています。馬のアニマルウェルフェア動物愛護についてです。2023年夏、米国サラトガ競馬場のG1競走で1頭の牝馬が事故に遭いました。これによって競馬が大きな批判を受け、多くの馬を所有していた馬主が競馬から撤退するという事案にまで発展しました。これは競馬サークルの人間として、調教師として危機感を持たなければならぬ出来事だと思っています。その危機感が、今後の事故防止につながればとも思っています。

は競馬開催の前にデモが行われています。日本でそのようなことが起きないように、競馬が批判の対象にならないように、サークル全体で考えていく必要があるのではないかと思っています。

次は人材不足についてお話をさせていただければと思います。日本社会は少子高齢化時代を迎え、競馬の業界だけではなく、どの分野



こういう事故を未然に防ぐためにも、海外では当たり前のように行っている出走馬に対する獣医検査が必要ではないかなと個人的には思っています。現在、ドバイ、香港やオーストラリアでは出走馬に対して必ず出走診断が行われておりますし、必要であればCTスキャン、レントゲン、エコー検査も行われています。これは人馬の安全のためにも必要なことだと思えます。

また、海外では馬場状態を理由に出走取消ができますが、日本ではそれができません。私自身が経験したことは警報級の大雨の中で競馬が開催されていることがありました。その日、私の厩舎からもメインレースである重賞競走に馬を出走させておりましたが出来ることであれば、取り消したかったというのが本音です。幸い、馬はケガをすることなく無事にゴールすることができましたが、もし

でも抱えている問題だと思えます。その中で競馬というスポーツを、どのようにして魅力的なものとするか、いかにして若い世代に競馬に興味を持ってもらうかということが課題ではないかと思えます。

私たち現場の人間ができることは技術職、専門家といったホースマンをいかにして育てるかということ。ひと昔前は有能なホースマンがヨーロッパ、オセアニアから来日し、技術の指導などを行っていました。日本人は仕事に熱心で一生懸命ですが、まだまだ馬への接し方に関して言えば劣るところがあるのではないかと思えます。

今馬産地では、ひと昔前とは異なり労働力として外国人を使うことが多いと思います。近い将来、トレセンでもそうなっていくだろうなと思っています。もちろん、住むところですか、家族の問題。ビザの問題など解決しなければならぬものは多いと思います。香港ではジョッキークラブが海外の人を雇用し、厩舎へと配属しています。それもひとつの方法ではないかと思えます。ただし、そういう中でもっとも大きな問題となるのは公正確保だと考えています。日本の競馬は安心して馬券を買えるという公正確保を打ち出して発展してきました。これは死守しなければならぬと思えますが、その一方で労働力

このタイミングで1頭でも故障すれば大変なことになっていったと思います。今は、SNS全盛の時代です。競馬が批判の対象にならないように、個人的には日本の競馬も馬ファーストであってほしいと思っています。また、馬ファーストという意味では気候変動による暑熱対策。とくに昨今は人馬ともに危険な暑さになってきていると思います。今年の夏は札幌開催も非常に暑かったことを覚えておられると思います。世界に目を向ければ、例えば香港やドバイのような気温が高い国でも競馬は行っています。しかし、そういう国ではしっかりと設備を備えています。空調設備はもちろんですが涼しい時間帯に調教、レースを行っています。今後、競馬存続のために改善点として考慮いただければありがたいです

ご存知のようアメリカやオーストラリアでどうするかは難しい問題だと思います。これは日本だけの問題ではなく、例えば英国でもインド人を多く雇っています。米国のようなライダー、グループ、ホットウォーカーといった分業制を取り入れるのも一つの方法かと思えます。今後はウォーキングマシンやトレッドミルの導入も検討されるべき課題かと思えますが、日本には労働組合がありません。その兼ね合いもセンシティブな問題かもしれません。

最後は引退競走馬、馬のセカンドキャリアについてです。競馬が淘汰選択を目的としているのは重々承知しておりますが、この業界の維持と発展のため、そして馬の福祉と動物愛護という観点から、SNSなどで批判の対象とならないよう、危機感を持って取り組んでいきたいと思っています。現在では引退競走馬の大会も行われておりますし、JRAも引退競走馬をリトレーニングして乗馬クラブへと寄贈することなどしておりますが、それが馬術会への貢献にもなりますし、その結果として乗馬人口、馬人口が増えれば、競馬人口の増加にもつながっていくと思います。

このように課題はたくさんありますが、自分たち世代に課せられたものだと思いますので業界を良くしていくためにも取り組んでいきたいと思っています。

会員懇親会を開催 ～夏川りみさんディナーショー～



ピール。それを受けるように後藤理事長からは「お互いが理解を深めていきたい」とし、そのうえで「アニマルウェルフェア（動物愛護）クライメイトチェンジ（気候変動）が大きな課題となつていますが、大きな課題があるということは、まだまだよくなる可能性がある。前に進んでいきたい」とメッセージを送られました。橋本会長からは「競走馬市場は大変な盛況。だからこそ、今のうちに次の一手を打ってほしい」と警鐘を鳴らす一幕も。また競馬議連としてフランス、イギリス、アイルランドで育成場を含めて7か所の視察を行ったことが報告され、秋元市長からは「感染症対策には多大なるご支援をいただき感謝申し上げます。世界中にはたくさんさんの競馬ファンがいるので、そういった方々に北海道の札幌で競馬を楽しんでほしい」とエールが送られました。

宮永副会長の音頭で会がスタート、そして今年もワールドオールスタージョッキーに参

加した外国人騎手含め、たくさんの方々が参加いただきました。シリーズ総合優勝の岩田望来騎手はじめ川田将雅、坂井瑠星、武豊、横山典弘、戸崎圭太らのベテラン、若手騎手。高知競馬からWASJに参加した宮川騎手は「楽しめなかったが、勉強になった」と前向きなコメントが。社台ファームの長浜様の進捗と武豊騎手の協力による騎手紹介は、今年も笑いに包まれたものとなりました。

そして、3年間ラブコールを送りつけてやっと実現にこぎつけた夏川りみさんのディナーショー。代表曲の「涙そうそう」などを情感たっぷりに歌い上げていただきました。

締めのおいさつの前に、盛夏の新潟競馬場から駆け付けてくれた手塚調教師会会長からは「夏の競馬は札幌でしかできないのではないかと。要望書実現のために協力したい」と力強い言葉をいただき、藤原副会長のあいさつにより会を終えました。

夏の恒例行事「会員懇親会」を今年もワールドオールスタージョッキーズ当日の8月27日、京王プラザホテル札幌で行いました。参加いただいたのは過去最高となる226人。今年もJRA日本中央競馬会の後藤正幸理事長、橋本聖子競馬議連会長、秋元克広札幌市長はじめ札幌競馬場の職員や調教師、騎手の方々に大勢ご参加いただき、会員と楽しい時間を過ごしました。

事業サービス委員会の秋谷委員長からは「今年の春、新型コロナウイルスも5類相当へと移行し、たくさんの方にご参加いただくことができました。感謝申し上げます。食事とショーと会話を楽しんでください」とあいさつ。岡田会長からは「今年の札幌記念は会員所有馬が上位3着までを占めました。気候条件も含めて、素晴らしいレースだったと思います。8月だからこそできる真の国際競走を、観光都市でもあるここ札幌で行いたい」と意を強くしました」とア



札幌馬主協会創立70周年記念 会員懇親会を開催

～クリスマス・ハートさんクリスマスディナーパーティー～



札幌馬主協会創立70周年記念「会員懇親会」を12月4日、札幌市のグランドホテルで行いました。154人の会員、会員家族にご参加いただき、華やかなクリスマスパーティーとなりました。

会に先立ち、去る11月23日に88歳で逝去された岩本允最高顧問(元会長)の功績を称え、弔いの意をこめて黙祷を捧げました。岩本最高顧問は昭和58年から平成26年までの31年間、当馬主協会の会長として、札幌競馬場の洋芝コースの開設計、平成26年の新スタンド建築に尽力され、また生産者会員が多いことから馬産地への強力な支援対策、ホッカイドウ競馬が売り上げの減少に苦しみ、苦境に立たされたときにはいち早く北海道と連携してその対応を行うなど競馬の発展に尽力されました。この場を借りて、改めてご冥福をお祈りしたいと思います。

会は、18時にスタート。秋谷事業サービス委員長は「23年最後の事業として、創立75周年記念パーティを企画しました。今日はお時間が許す限り楽しんでください」とあい

さつ。岡田会長からは「今年には会員の方々の愛馬が国内外で活躍した1年でした。そんな皆様の愛馬のセカンドキャリアについて考える年にしたい。現在はジャパンスタッドブックインターナショナルが行う「引退名馬繋養展示事業」が支援を行っています。馬だけにファンがいるわけではない。いろいろなか形でサラブレッドを活用し、ヒトとウマとのふれあいの場を設けることを馬主協会としても率先して行いたい。今日、ここにおられるみなさまは馬を愛する方ばかりと思えますが、そんなみなさんが愛馬に気軽に会いに行けるような施設、そしてウマが自分のそばにいることによって心豊かに人生を送ることができるところができるように、それがホースマンとしての幸せだと思えます」とメッセージを込めたあいさつを行いました。

また、来賓として参加

この日のゲストはアメリカ出身で日本で歌手活動、紅白歌合戦への出場も経験しているクリス・ハートさん。クリスマスイブやサイレントイブなどクリスマスにちなんだ歌を多数織り込みながら、甘い歌声に会場は酔いれました。

最後は宮永副会長から「日本中央競馬会、札幌競馬場が今年よりも盛大に「会員みなさんの愛馬の活躍」「札幌馬主協会が歩みを止めることなく発展していくように」という願い込めた三本締めで会を締めくくりました。



2023年欧米 リーディングサイヤー検証



海外競馬解説者
合田直弘

【著者略歴】
1959年東京都出身。海外競馬解説者慶應大学卒業後、テレビ東京に入社。「土曜競馬中継」「馬・疾風ロマン」などの制作を担当。のち、1988年に同社を退社し、(有)リージェントを設立。テレビ、新聞、ラジオ、雑誌などで海外競馬の解説を行なっている。現在、グリーンチャンネル「ALL IN LINE」～世界の競馬～、「Go Racing!」などに出演。

2023年の英国と愛国の数字を合算したリーディングサイヤーは、ニューマーケットのジャドモントファームスで繋養されているフランケル（父ガリレオ）だった（レイシングポストによる集計）。

2023年の英国と愛国の数字を合算したリーディングサイヤーは、ニューマーケットのジャドモントファームスで繋養されているフランケル（父ガリレオ）だった（レイシングポストによる集計）。

産駒の馬場状態別の勝率は、Heavyが16・3%、Softが22・3%であるのに対し、Goodが38・1%、Good to Firmが44・3%と、馬場が乾くにつれて成績が上がっており、その辺りの適性が、日本でも3頭のGI勝ち馬を出している背景にありそうだ。この春は、前述したウェストオーバーや21年のGI英ダービー勝ち馬アディーヤなど、大物直仔が種牡馬として日本に導入されており、日本におけるフランケル系の影響力は増していきそうだ。

あるオーギュストロダンのダービーなど欧州で3つのGIを制したディーピンパクトが、ランキング13位に入っていることは、ぜひ付記しておきたい。2歳リーディングは、クールモアスタッドで供用されているノーネイネヴァー（父スカットダー）で、22年に続くこの部門の連覇を達成。フレッシュマンサイヤー首位は、2歳リーディング2位だったブルーポイント（父シャマルダル）となった。19年のロイヤル開催で、史上3頭目となるGIキングズスタンドSとGIダイアモンドジュビリースのダブル制覇を果たした後、ダーレーオーストラリアでスタッドインしたのがブルーポイントだ。その後北半球では、愛国のキルダンガンスタッドが供用地となっている。現役時代に、1963年から69年にかけて

同馬の首位は、21年に続き2年振り2度目のことだ。マイル路線でGI・2勝のインスパイラルやGI英二千ギニー勝ち馬カルディアアン、10F路線でGI・2勝のモスタダフ、12F路線のGIサンクルー大賞勝ち馬ウェストオーバーやGI英オークス勝ち馬ソウルシスター、長距離路線のGIゴールドC勝ち馬クラージュモナミなど、23年もフランケルは相変わらず幅広い距離区分でA級馬を輩出。総収得賞金の714万3561ポンドは、2位ダークエンジェルの429万6

2023年の英国と愛国の数字を合算したリーディングサイヤーは、ニューマーケットのジャドモントファームスで繋養されているフランケル（父ガリレオ）だった（レイシングポストによる集計）。

あるオーギュストロダンのダービーなど欧州で3つのGIを制したディーピンパクトが、ランキング13位に入っていることは、ぜひ付記しておきたい。2歳リーディングは、クールモアスタッドで供用されているノーネイネヴァー（父スカットダー）で、22年に続くこの部門の連覇を達成。フレッシュマンサイヤー首位は、2歳リーディング2位だったブルーポイント（父シャマルダル）となった。19年のロイヤル開催で、史上3頭目となるGIキングズスタンドSとGIダイアモンドジュビリースのダブル制覇を果たした後、ダーレーオーストラリアでスタッドインしたのがブルーポイントだ。その後北半球では、愛国のキルダンガンスタッドが供用地となっている。現役時代に、1963年から69年にかけて

あるオーギュストロダンのダービーなど欧州で3つのGIを制したディーピンパクトが、ランキング13位に入っていることは、ぜひ付記しておきたい。2歳リーディングは、クールモアスタッドで供用されているノーネイネヴァー（父スカットダー）で、22年に続くこの部門の連覇を達成。フレッシュマンサイヤー首位は、2歳リーディング2位だったブルーポイント（父シャマルダル）となった。19年のロイヤル開催で、史上3頭目となるGIキングズスタンドSとGIダイアモンドジュビリースのダブル制覇を果たした後、ダーレーオーストラリアでスタッドインしたのがブルーポイントだ。その後北半球では、愛国のキルダンガンスタッドが供用地となっている。現役時代に、1963年から69年にかけて

7連覇したポールドルーラーに次いで、歴代3位タイの長期政権で、米国競馬史でも屈指の大種牡馬との評価を手にしたと言えそう

あるオーギュストロダンのダービーなど欧州で3つのGIを制したディーピンパクトが、ランキング13位に入っていることは、ぜひ付記しておきたい。2歳リーディングは、クールモアスタッドで供用されているノーネイネヴァー（父スカットダー）で、22年に続くこの部門の連覇を達成。フレッシュマンサイヤー首位は、2歳リーディング2位だったブルーポイント（父シャマルダル）となった。19年のロイヤル開催で、史上3頭目となるGIキングズスタンドSとGIダイアモンドジュビリースのダブル制覇を果たした後、ダーレーオーストラリアでスタッドインしたのがブルーポイントだ。その後北半球では、愛国のキルダンガンスタッドが供用地となっている。現役時代に、1963年から69年にかけて

あるオーギュストロダンのダービーなど欧州で3つのGIを制したディーピンパクトが、ランキング13位に入っていることは、ぜひ付記しておきたい。2歳リーディングは、クールモアスタッドで供用されているノーネイネヴァー（父スカットダー）で、22年に続くこの部門の連覇を達成。フレッシュマンサイヤー首位は、2歳リーディング2位だったブルーポイント（父シャマルダル）となった。19年のロイヤル開催で、史上3頭目となるGIキングズスタンドSとGIダイアモンドジュビリースのダブル制覇を果たした後、ダーレーオーストラリアでスタッドインしたのがブルーポイントだ。その後北半球では、愛国のキルダンガンスタッドが供用地となっている。現役時代に、1963年から69年にかけて

あるオーギュストロダンのダービーなど欧州で3つのGIを制したディーピンパクトが、ランキング13位に入っていることは、ぜひ付記しておきたい。2歳リーディングは、クールモアスタッドで供用されているノーネイネヴァー（父スカットダー）で、22年に続くこの部門の連覇を達成。フレッシュマンサイヤー首位は、2歳リーディング2位だったブルーポイント（父シャマルダル）となった。19年のロイヤル開催で、史上3頭目となるGIキングズスタンドSとGIダイアモンドジュビリースのダブル制覇を果たした後、ダーレーオーストラリアでスタッドインしたのがブルーポイントだ。その後北半球では、愛国のキルダンガンスタッドが供用地となっている。現役時代に、1963年から69年にかけて

用されているイントウミスチフは23年、G1エイコンSなど3つのGIを制したプリティミスチヴァスを筆頭に、6頭のG1勝ち馬を送り出したが、「G1勝ち馬数」も全種牡馬の中でトップの数字だった。この他、出走頭数、勝ち馬数、ブ

あるオーギュストロダンのダービーなど欧州で3つのGIを制したディーピンパクトが、ランキング13位に入っていることは、ぜひ付記しておきたい。2歳リーディングは、クールモアスタッドで供用されているノーネイネヴァー（父スカットダー）で、22年に続くこの部門の連覇を達成。フレッシュマンサイヤー首位は、2歳リーディング2位だったブルーポイント（父シャマルダル）となった。19年のロイヤル開催で、史上3頭目となるGIキングズスタンドSとGIダイアモンドジュビリースのダブル制覇を果たした後、ダーレーオーストラリアでスタッドインしたのがブルーポイントだ。その後北半球では、愛国のキルダンガンスタッドが供用地となっている。現役時代に、1963年から69年にかけて

あるオーギュストロダンのダービーなど欧州で3つのGIを制したディーピンパクトが、ランキング13位に入っていることは、ぜひ付記しておきたい。2歳リーディングは、クールモアスタッドで供用されているノーネイネヴァー（父スカットダー）で、22年に続くこの部門の連覇を達成。フレッシュマンサイヤー首位は、2歳リーディング2位だったブルーポイント（父シャマルダル）となった。19年のロイヤル開催で、史上3頭目となるGIキングズスタンドSとGIダイアモンドジュビリースのダブル制覇を果たした後、ダーレーオーストラリアでスタッドインしたのがブルーポイントだ。その後北半球では、愛国のキルダンガンスタッドが供用地となっている。現役時代に、1963年から69年にかけて

あるオーギュストロダンのダービーなど欧州で3つのGIを制したディーピンパクトが、ランキング13位に入っていることは、ぜひ付記しておきたい。2歳リーディングは、クールモアスタッドで供用されているノーネイネヴァー（父スカットダー）で、22年に続くこの部門の連覇を達成。フレッシュマンサイヤー首位は、2歳リーディング2位だったブルーポイント（父シャマルダル）となった。19年のロイヤル開催で、史上3頭目となるGIキングズスタンドSとGIダイアモンドジュビリースのダブル制覇を果たした後、ダーレーオーストラリアでスタッドインしたのがブルーポイントだ。その後北半球では、愛国のキルダンガンスタッドが供用地となっている。現役時代に、1963年から69年にかけて



英愛チャンピオンサイアーとなったフランケル ©racingfotos

2023年英愛総合サイアーランキング

種牡馬名	出走回数	勝馬回数	勝利回数	獲得賞金(£)
フランケル Frankel	191	87	124	7,143,651
ダークエンジェル Dark Angel	255	109	162	4,296,679
ドバウィ Dubawi	183	81	111	4,294,718
ガリレオ Galileo	135	56	78	4,184,433
シユーニ Siyouni	100	39	54	4,005,162
シーザスターズ Sea the Stars	202	78	116	3,990,839
キングマン kingman	206	103	151	3,859,848
コディアック Kodiak	283	118	186	3,285,539
ロペデヴェガ Lope de Vega	225	101	151	3,269,763
ノーネイネヴァー No Nay Never	170	66	99	2,991,297

2023年英愛2歳サイアーランキング

種牡馬名	出走回数	勝馬回数	勝利回数	獲得賞金(£)
ノーネイネヴァー No Nay Never	67	17	34	1,393,553
ブルーポイント Blue point	94	70	57	1,090,430
コディアック Kodiak	82	4	49	1,032,292
ドバウィ Dubawi	52	55	29	931,502
ハヴァナグレイ Havana Grey	70	38	47	928,653

2023年米国総合サイアーランキング

種牡馬名	出走回数	勝馬回数	勝利回数	獲得賞金(\$)
イントウミスチーフ Into Mischief	429	196	332	£6,387,336
カーリン Curlin	226	122	196	£5,054,148
アンクルモー Uncle Mo	292	149	241	£5,053,284
ガンランナー Gun Runner	189	106	153	£4,164,751
マニングス Minnings	333	169	281	£3,807,546
クオリティロード Quality Road	228	120	186	£3,274,685
プラクティカルジョーク Practical Joke	250	134	197	£3,194,762
ハードスパン	269	127	199	£3,058,071
ノットディスタイム Not This Time	186	97	170	£2,811,633
カンタロス Kantharos	301	171	281	£2,639,528

2023年米国2歳サイアーランキング

種牡馬名	出走回数	勝馬回数	勝利回数	獲得賞金(\$)
ジャスティファイ Justify	48	16	26	3,763,170
コンスティトゥション Constitution	84	30	36	2,671,459
ミトレ Mitole	75	32	37	2,577,654
ガンランナー Gun Runner	39	17	22	2,558,250
メンデルズゾーン Mendelssohn	75	27	31	2,391,070

2024年競走馬市場を占う



須田 鷹雄

【著者略歴】

1970年東京生まれ。競馬評論家、ギャンブル評論家。中学生時代にミスターシービーをきっかけとして競馬に興味を持ち、1990年・大学在学中に「競馬ダントツ読本」(宝島社)でライターとしてデビュー。以来、競馬やギャンブルに関する著述を各種媒体で行うほか、テレビ・ラジオイベントの構成・出演も手掛ける。

今回は2024年の競走馬市場がどう変化するか、占ってみたい。

まずは海外の事情だが、海外においてもここ数年は強いセリが続いていた。新型コロナウイルス対策としての金融緩和が富裕層をより富ませ、行き場のない金が不動産、高級車、高級時計、そして競走馬に向かったというのは全世界共通の構図だったのではと思う。

ポストコロナの時代になってもその勢いは続いていたが、さすがにピークを越えつつある。ニュアンスとしては、スケールの違う大金持ちはまだ元氣だが中金持ち、小金持ちは勢いを失いつつあるという印象だ。

日本人の参加も多いキーンランドセプテンバーセールは一流血統の集まるブック1の平均価格が2021年から順に米ドルで38・3万↓48・4万↓48・5万(千ドル未満を四捨五入、以下同様)。中間価格は31・0万↓

44・3万↓40・0万で、23年はやや下げたがまだ高い水準を維持している。

一方ブック2以降を含めたトータルでは、平均価格が13・1万↓14・1万↓14・1万。中間価格は6・5万↓7・0万↓6・7万。平均を維持しつつ中間が下がったということは、安い馬がより安くなり、高馬が平均を維持しているということになる。

年明けの主要セールとしては、オーストラリアのマジックミリオンズゴールドコーストセールが終了した(ポストセール取引は原稿執筆時点で継続している)、今後指標に僅かな変化はある)。イングリスタ社のイースターセールと並び、オーストラリアではハイエンド寄りのセールである。

ブック1の平均価格は2022年から順に豪ドルで29・3万↓29・1万↓27・6万。中間は23・0万↓21・0万↓20・0万で、こちらはハイエンド側も下がり始めた。ブック2

もある。

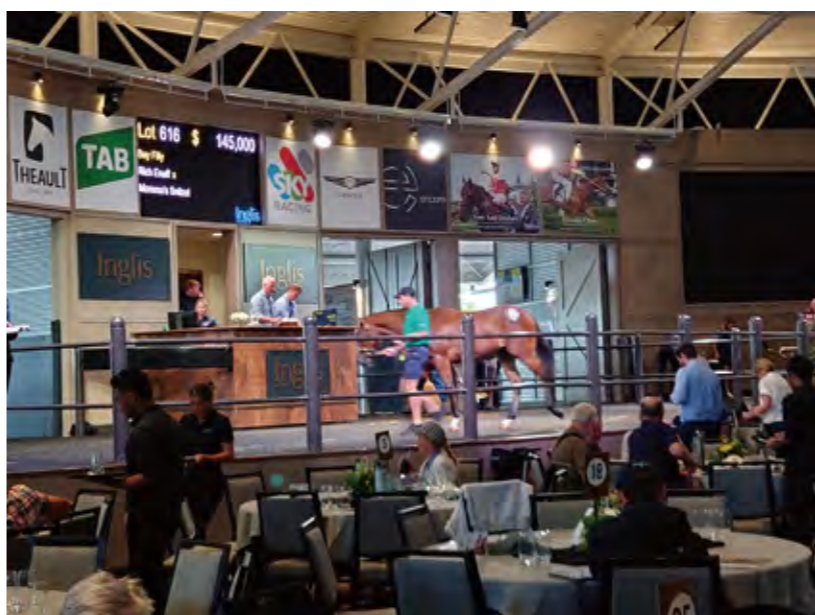
では、2024年の日本はどうなるか。こればかりはやってみないと分からないが、海外よりはまだ「高いセール」が続くのではないかと筆者は考えている。

セレクトセールは近年新しい馬主が多く、ここ数年の相場を普通だと思っている節もあつて10年前に3〜5000万円のレンジを狙っていた層は疲弊しているが、「理屈に合わない金」を出せる購買者はまだ2〜3年は元気だろう。昨年のノーザンファームミックスセールで当歳馬の価格が意外に伸びず「終わりの始まり」も来ていなくはないのだろうが、セレクトセールのブランド力はまた別物だ。

海外でミドル層以下が下がっていることを考えるとHBAの各セールは下がってもおかしくなさそうだが、こちらには地方競馬の購買補助という特殊事情がある。地方競馬、特にデイ場は売り上げ減が始まっているが、まだ数年は購買補助廃止の話にはならないだろう。購買補助は、当たっていないときに高く買うことを考えると馬主には中立、本質的には生産者を潤す制度だと思いが、いまのところ馬主側から疑問を持つ声は出ていない。

結局「今年も高い」という予想になり馬主

以下も含めたトータルだと、平均が24・0万↓24・0万↓21・3万。中間は18・0万↓17・0万↓15・0万となっている。中間値を見れば分かるように、こちらも価格上位の馬



オーストラリアでは馬価格の下落が始まっている(写真は2023年イングリスタクラシックセール)

には打つ手がないが、できることがあるとしたら「冷静になる」「戦略を持つ」ということだろう。

HBAについてはセレクションセールがプレミアムセッション1日、その他2日の計3日になり、一方でサマーセールは5日を維持、場合によっては6日制になるという。

かつてセレクションは1日だったから、昔のサマーから2日分の馬が「セレクション」と包み紙を替え、さらにセレクト難民との戦いが加わる格好だ。サマーも、以前のセプテンバーオータム組が2〜3日分合流していることになる。この構図を理解していないと、適正価格を遥かに上回るところをビッドすることになってしまう。

ただセリ日程が長くなると特定の日にはや時間帯にビッドの薄いゾーンができるので、それがいつかを予想するのは、馬主にとって有益なことにはなるはずだ。

もうひとつは、セリ人気伸びない一方で成績が悪くない種牡馬を狙うことだ。芝もダートもブランド種牡馬の産駒は適正価格を超えて高くなる。筆者も代理人としてセリに参加するので具体的な名前は明かせないが、「実は走っている種牡馬」というのはどんな時期にもいるものだ。



好調続くセレクトセール(写真は2023年当歳セッション)

がまだなんとか頑張っている一方で、下が安くなっている状況だ。オーストラリアでは昨年の時点で、高馬のセールはまだ堅調だが、日本だとHBAサマーセールに近いニュアンスのイングリスタクラシックセールなど中〜下位のセールははっきり指標を下げていた。逆に言うと、買い手からしてみれば買いやすくなるということ

馬上の景色

第14回

ブリーダーズカップ観戦記

2023年のブリーダーズカップ（以下BC）は、その歴史を支えてきた競馬場のひとつであるロサンゼルス東郊のサンタアニタパーク競馬場で行われた。1984年の第1

テソーロが人気馬の一角を占めた。これら日本馬が挑戦した各競走の結果は既報通りで、本欄では私が現場で見たことを紹介したい。

全米統一ルール移行期の中で

走が施行。2007年からは金・土の2日間開催となり、現在14のGI競走が行われる世界最大の競馬の祭典である。この開催の真打はBCクラシック（3歳上ダート2000m）で、このレースこそダート競馬の世界最高峰と言えよう。そして今回の第40回記念開催では日本から8頭が出走し現地でも話題となり、特に同年のドバイワールドカップ優勝馬としては初のBCクラシック挑戦となるウシュバ

話は遡ること米国東部時間10月4日午前零時11分。日本から「お手隙の際、連絡されたし」との伝言が届いた。送り主は音無秀孝調教師で、早速電話を差し上げると管理馬デルマントガケのBC遠征時の装蹄師選定と獣医事（装蹄を含む）に関する通訳依頼であった。早速その日から調査を始め、候補者に挙げたウエス・シャンペン氏の評判を西海岸に拠点を置く関係者

達に聞き、その後本人と電話で話して採用を決めた。同馬の入厩日は10月24日だったが、同時期に予定していた日本出張を変更できない。そこで、事前に音無厩舎スタッフから同馬に関する各肢の状態を聞き取り、シカゴ発羽田行き直行便をロサンゼルス経由に変更しシャンペン氏に直接会って打ち合わせをした。スマートフォンやインターネットのご時世で、こうしたやり方が無駄と感じる方もいるかもしれない。しかし、これが私流で出張先に「仲間」を作って置きたいのである。特にカリフォルニア州では、というのは、同州の競馬は地域社会からのコンセンサスを得るために他州以上に出走馬の歩様検査に神

存在感増す日本馬

経質で、遠征馬とは言え主催者側に疑問を持たれると直前でも出走取り消し措置に遭いかねない。デルマントガケは入厩後も順調に過ごしていたが、度重なる歩様検査に厩舎側のイライラが増していたので、通訳としてはいささか越権行為だが出走4日前の検査で主催者側の獣医師達の横に立ち「ケンタッキー州から来た獣医師の」と強調して自己紹介して検査に立ち会い「何か不満があれば、今この場で話してもらいたい」と迫った。

10月30日、日本での商用を終え東京からサンタアニタパークへ直行。

国際検疫厩舎へ出入りするための特別通行章をもらい防疫上のルールに従う。そのためBCに出走する私の米国生産馬2頭には触れないことになり「こんな偶然もあるのか」と苦笑した。検疫厩舎へ行くときクラシック出走の日本馬両頭の馬体がい

はこの国のサラブレッドの良いところが凝縮されていると思う。サラブレッド生産と売買を仕事とする私は、メディアや国際レーターの評価とは違った視点で中東遠征馬を見ているが、この2頭は見劣りがしないし日本産ダート馬の確実な進化も感じさせた。実は上述のシャンペン氏が

デルマントガケの装蹄時に、私は「日本と米国のダート馬、どちらの蹄が大きいんですか」と訊いてみた。すると「そう言われてみると以前は小さいなっと思って日本馬を見ていたけど、この馬の蹄は米国サイズだよ」とのことだった。

一方、芝競走出走馬については凱旋門賞遠征馬同様、「馬群・内埒沿い」で我慢できるか否かという点で見ている。米国の芝馬場はダート馬場の内側にあり、つまり小回りの馬場で直線は短い。普段広い馬場で、しかもレース中他馬との隙間が広い日本から来ることが心配だし、馬混みを避けるため後方や外側からは競馬では届かないことの方が多からだ。その点ではシャフリヤールやウィンマリリンは、我慢、つまり精神的な強さを見せながらレースをし、今回は優勝馬がいなくてもそれ以上の存在感を日本馬達は見せたと思う。

変わらぬ舞台裏の優しさ

40年前に競馬人が始めた人馬のための開催でBC自体も巨大化し

でもホースマンシップは変わらない。実はBCクラシックのパドックでデルマントガケの所有者である浅沼氏が杖を使用しているのを見た職員が機転を効かせ、本来出走馬と部メディアのみが入れる馬道に夫妻を招いてゴール前の外埒へ案内した。愛馬の激走を文字通り眼前で蹄音を聞きながら見届けられたのである。同馬が2着に入ったことで日本馬にとって凱旋門賞以上に難しいと思われていたBCクラシック制覇がいよいよ手の届きそうな距離に引き寄せられた。来年のデルマー競馬場での開催が今から待ち遠しい。



世界最高峰レースで外から差を詰めたデルマントガケ(左端) ©T.Moriuchi

▽11月4日 サンタアニタ競馬場(速)

ブリーダーズカップクラシック(G1、3歳以上、定量)ダート2000m

着順	馬番	馬名	性齢	騎手	重量	タイム	調教師
1	3	ホワイトアバリオ	牡4	I.オルティス Jr.	57	2.02.87	米・R.ダトロー Jr.
2	5	デルマントガケ	牡3	C.ルメール	55.5	1	日・音無秀孝
3	13	プロクシー	牡5	J.ロザリオ	57	1 1/4	米・M.スティッドハム
4	12	アレイビアンナイト	牡3	F.プラ	55.5	クビ	米・B.バファート
5	8	ウシュバテソーロ	牡6	川田将雅	57	3/4	日・高木登



ブリーダーズカップ出走予定馬による朝の調教風景(著者撮影)

JBC競走が行われる 佐賀競馬場紹介

夕日を浴びながらスタートを迎えたJBCクラシック。直線でキングズソードが抜け出すと、大井競馬場は大歓声に包まれました。その昨年11月3日のJBC当日、大都会の競馬場に佐賀県競馬組合の職員たちの姿がありました。

「ゴミ箱は特大サイズを置いてあるんですね」「カメラマンの人数、こんなに多いんですか」など、JBC当日の様子を確認。

いよいよ今年、佐賀競馬場で初めてJBCが開催されます。近年はコロナ禍の巣ごもり需要に加え、YouTube生配信「SAGアリベンジャーズ」、独自のおもてなし「うまてなし」などが奏功し売り上げを伸ばす佐賀競馬。コロナの収束が見えた昨年は前年比を割り込む地方競馬が多い中、前年比103・9%を達成しました。

それに伴い、競走馬を取り巻く環境も改善されています。その一つは馬用シャワー。近年はJRAでも暑熱対策が重要課題となっておすね。22年の高知・黒船賞は力のいる良馬場で、『脚を取られて、こんなに違うんだ』というくらいJRA馬は進んでいかなかったです。佐賀はむしろスイスイ進みますね」個人的にも、佐賀はJRA馬にとっても比較的走りやすい砂だと感じます。また、ラチはJRA同様、人馬の安全に考慮したものに一新されています。

コース形態としては1周1100メートル



九州で唯一生き残った佐賀競馬場で初めてのJBC開催。「やるぜJBC。」に意気込みが感じられます。

り、佐賀県でも昨年8月は約半数の日で最高気温が35℃を越え、他人事ではありません。

そこで22年からレース後の馬体冷却用にコース脇に馬用シャワーを設置。JBCスプリントの前哨戦として同距離の1400メートルで行われるサマーチャンピオン（JpnⅢ、8月29日）を選択肢に入れる陣営も



コース脇に設置された馬用シャワーが夏は大活躍

いるでしょうが、熱中症対策は出走する上で安心材料となるでしょう。また馬場のメンテナンスも行っていきます。17年に1カ月休催して路盤の改修を行い、その後も定期的にメンテナンスを実施。昨年も約3週

の小回りコース。しかしながら、同じ小回りの園田や高知と比べると昨年の差し・追込馬の勝率はやや高く、ゴール直前で差し切る場面も見られます。

騎手では6年連続で8名の新人がデビュー。所属騎手19名のうち42%を占め、積極的なレースが増えるなどレース内容に変化が生まれました。

そうした中、頭角を現しているのは飛田愛斗騎手。15年連続で佐賀リーディングに君臨し続けた山口勲騎手を抑え、昨年初の佐賀リーディングに輝きました。対する山口騎手も昨年の勝利数が伸び悩んだ理由は足の骨折。2カ月の休養期間があったため、まだまだ腕は衰えていません。

もう一人、佐賀の隠れた名手は石川倭騎手。ホッカイドウ競馬の所属ながら、今年も含め3回、オフシーズン中に期間限定騎乗を行っており、いずれも期間中トップ3に入る勝ち星を挙げています。11月3日は門別競馬場でもJBC2歳優駿が行われるため、JBC佐賀での騎乗はなかなか難しいかもしれませんが、このコースを熟知していることは確かです。

ファンが関わる場所ではレンガ造りのスタンドや、日本で唯一の右回りパドックなどは



大恵陽子

【著者略歴】

競馬リポーター。小学5年生で競馬にハマリ、地方とJRAの二刀流。関西を拠点に、栗東トレセンや地方競馬場での取材に全国を駆け回る日々。グリーンチャンネル「アタック!地方競馬」「地方競馬中継」に出演のほか、「優駿」「週刊競馬ブック」「netkeiba.com」「うまレター」「馬事通信」「NumberWeb」「スポーツナビ」など各種媒体で執筆。

間、休催して砂を全面入れ替えしました。

また、2月の佐賀記念JpnⅢの開催直前には向正面と直線に砂を補充。いつもの約2倍、内を開けて走る傾向が見られ、レース後には佐賀県調騎会会長の真島元徳調教師がJRA騎手の一人ひとりに「今日の馬場はどうでしたか？」と声をかけて、意見に耳を傾けていました。JBC開催に向けて、現場の意見を取り入れながら進められています。

その砂の特性について、地方競馬情報サイトには「ほかの競馬場に比べて粒が大きく、パワーがある馬のほうが有利という傾向がある」と記載されていますが、近年はこの限りではありません。

全国の競馬場で豊富な騎乗経験のある吉原寛人騎手（金沢）は肌感覚をこう話します。

「砂の重たい・軽いについては、園田競馬場や、大井競馬場、船橋競馬場（いずれもオーストラリア産）と同じくらいの印象です。さすがにタフな高知競馬場よりは軽いで

従来通りの使用となる予定です。

さて最後に移動と食について。福岡空港からは車で約40分。新幹線を使って新鳥栖駅まで行き、タクシーを利用したとしてもほぼ同じ所要時間で競馬場に着くことができます。宿泊するなら、在来線の鳥栖駅前にも何軒かホテルがあるものの、オススメは博多か、競馬場から車で約15分の久留米駅周辺がホテルも飲食店も格段に充実しています。

場内グルメの名物は麺類。入場門入ってすぐ右手の食堂街にある「龍ラーメン」では、500円とお手頃価格で豚骨ラーメンが食べられ、お値段以上の味。隣の「のだ屋」はイケメンという素焼きした中華そばに和風醤油ベースのラーメンが名物。ほっこり懐かしい味と、やや硬めの麺がよく合います。

4コーナー側にあるカフェ「FUI」は飲み物がジョッキサイズ。ジュースやコーヒーにアイスクリームが乗ったフロートや、スパイスにこだわったカレー、ふわとろオムライスなど競馬場らしからぬオシャレメニューと、手作り馬雑貨が並びます。

佐賀競馬場は「うまてなし」の言葉通り、レトロながらも温かい人たちによるおもてなしが随所に感じられます。JBC当日はぜひ佐賀競馬場に足をお運びください。

リアルな競馬に触れる、 かけがえのない7週間



坂田博昭

【著者略歴】

1968年東京生まれ。ブロードキャスター。グリーンチャンネル『中央競馬中継』キャスターを18年間勤めたあとは、「競馬を契機に人々が集まる場所」をテーマに、全国の競馬場や場外発売所での予想イベントなど「現場」での仕事にも注力。日本に数名しかいない、フランスのカーリング実況アナウンサーの草分け的存在でもある。

例年、札幌競馬の開催日には、JRAが開催全場で行っている初心者向けの競馬教室「ビギナーズセミナー」の講師として呼んで頂き、来場客と接する機会に恵まれている。「初心者」と一口に言っても、性別も年齢層も、初めて「競馬場に行ってみよう」となる動機も実情も実は様々。コロナ禍以降のJRAの競馬場では、これまでに比して「若い」来場客が非常に増え、何となく「最近の競馬場の客層は変わった」と言われているが、現場レベルで一人ひとりの来場客の姿に触れると、単純に「若い競馬ファンが増えた」というだけではない、また別の視点も見えてくる。それは、人々が短い札幌競馬の開催期間中に、リアルな競馬に触れる数少ない貴重なチャンスと捉え来場しているという、わかっているようでつい見落としがちな現実だ。

いわゆる「おひとりさま」で初めて競馬場を訪れたという札幌市内在住の30代の女性

は、想像と全く異なる競馬場の明るくクリンな雰囲気、驚き、「次は是非母と来たい」と話した。札幌競馬の開催日はわずか7週間。一度来て、また折り返しても一度来るというのには慣れない顧客にとってはハードルが高いが、本当に家族を連れて再来場してくれたとすれば、競馬ファンが増えていくまさに「好循環」。短い期間でこうした循環がどれだけ生み出せるかということは、競馬ファン層拡大のためのポイントになるはずだ。

転勤等で札幌に移住してきたタイミングで競馬を始めた、または久しぶりに再開したという話も、セミナーの受講者からはよく聞く話だ。それは、その人にとつての「新たな土地」に来てみたら競馬場があった、というだけでなく、首都圏や近畿圏で競馬場がある環境だったにもかかわらず縁がなく、札幌に来てみて「競馬に行ってみよう」となったという人も少なくない。年配の男性でセミナーを

訪れる顧客の中には、若い頃に競馬場のない地域に移り一旦切れてしまった競馬との縁が、時を経て札幌に移り何十年ぶりに復活したという方にも、少なからず行き会う。そうした声に触れると、北都・札幌に競馬があることのおかげがえのなさ、そして僅かな開催期間を捉えて訪れてくれるそうした「新しい顧客」の有り難さを改めて感じる。

そのように自発的に競馬場を訪れる新規顧客だけでなく、札幌競馬の開催を契機として競馬に触れてもらおうという取組もある。例えば、ホッカイドウ競馬の場外発売所「Aiba石狩」(運営主体は民間のサテライト石狩)が札幌競馬場の協力を得て行っている観戦ツアー「ケイバ女子会」は、地元・石狩市在住の女性から札幌競馬場に行ってみたくという初心者ないしライトファンを20名程度募り、現地観戦会を行うというもの。競馬場か

ら提供を受けたテラス席での競馬観戦の体験だけでなく、場内ツアーやバックヤードツアーなどにより、開催中の競馬場でしか味わえない競馬の魅力を感じることが出来るイベントだ。かれこれもう7年前から行われている地域主導・民間主導の取組で、コロナ禍を挟んで昨年復活開催することが出来た。

ライブで見る競馬は、家庭や場外発売所で映像で見るとはインパクトが違う。実際、

イベント参加者の中には、その後札幌での競馬開催がない季節にも折に触れて場外発売所に足を運ぶようになる顧客もいる。リアルな競馬開催があるからこそ出来るこうした取組は、そのことをうまく生かそうとする工夫の好例と言えるだろう。民間の主体がこうしたことに取り組むには、かけられるリソースの面での苦労も大きい。主催者や関連団体、その他外から競馬に関わり支えようとする人々が実施やそのサポートに携わっていくことにより、持続的に発展させていくことも可能ではないだろうか。



『ケイバ女子会』の記念撮影。筆者(写真後列右端)が案内役を務める

競馬に関わる「中の人」になると、「競馬は世において一般的なもの」とつい錯覚しがちだ。しかし現実には、まだ世の殆どの人々はリアルな競馬を見て楽しんだことがないのだ。そんな中でも、「競馬を楽しみたい」という人々の『熱意』は様々な場面で感じられる。これは日本最北の馬券の発売所である「ハロンズ名寄」(ばんえい競馬の発売所で、週末はJRAの馬券を発売)のスタッフから聞いた話だが、G1の当日には更に北の稚内方面からわざわざ馬券を買いに来る若者の姿がそれなりにあるそうだ。稚内から名寄までは、車でおよそ3時間。その顧客の競馬への熱意を更に車で3時間離れている札幌ま



テラス席での『ケイバ女子会』レース観戦風景

で届かせることは至難の業だが、今後競馬という物事の「根っこ」を道内隅々までしっかりと伸ばしていける可能性があるのも、また、札幌でリアルに競馬開催があることのおかげがえのなさだと強く感じる。

わずか7週、されどかけがえのない14日間この場所で行われるリアルな競馬を楽しみたいというファンの「熱意」が結集し、昨年以上回る興奮と感動に溢れた札幌競馬を皆で楽しめる夏を、いまから心待ちにしている。

馬産地からの便り 「ダーレー・ジャパンの紹介」



橋本樹理

【著者略歴】
広島県出身。関西外国語大学卒業後、スポーツ報知大阪本社に入社。2年間のレイアウト担当を経て、03年に中央競馬担当となる。(この年のダービー馬はネオユニヴァースでした) 栗東トレセンで取材する傍ら、日本馬の海外遠征に同行取材も。19年5月にスポーツ報知大阪本社を退社。現在は北海道日高地方に拠点を移して、フリーで活動。主な寄稿先は 優駿、JRA公式サイト(海外馬券発売)、うまレター、競走馬のふるさと案内所のウェブサイト、スポーツ報知、pacalla、競馬ブック、一口クラブの会報誌など。



関西から北海道に拠点を移し、今年で6年目となりました。涼夏少雪の日高から馬産地の話題をお届けします。

第1回目は、2012年に札幌馬主協会の最高顧問UAEドバイの首長、H.H.シェイク・モハメドが設立した「ゴドルフィン」の日本現地法人、日高町のダーレー・ジャパン株式会社をご紹介します。

ダーレー・ジャパン株式会社は、2002年6月に当時のダーレー・オーストラリアが株主として100%出資し、設立されました。その翌2003年に子会社として、競走馬を

所有するダーレー・ジャパン・レーシング有限会社が設立。初期の頃に所有していたフリーオンはGIを6勝する活躍で、種牡馬としてもダーレー・ジャパンを支えてきました。さらに、2004年9月に競走馬を生産、育成を行うダーレー・ジャパン・ファーム有限会社が設立。その中に種牡馬を繋養する施設としてダーレー・ジャパン・スタリオンコンプレックスがあります。

設立以前は日高の牧場に繁殖牝馬を預託する形で生産を行っていたダーレー・ジャパン・ファームですが、設立後は日高町を中心に少しずつ所有地の面積を拡大してきました。2024年2月現在で北海道日高地方に8つのヤード、合計で約540haの土地を所有しています。そのなかで、比較的新

ノミネーションマナージャー。2月11日現在、産駒8頭のうち6頭が勝ち上がり、芝、ダートともに勝ち馬を出しており、日本競馬への適性の高さがうかがえます。

ヨシダは日本産馬として初めてアメリカのダートGIを制したハーツクライ産駒。「現役時代は芝、ダートの両方で結果を出した馬。距離にも融通が利きますので、産駒には中央の芝・ダートそして地方のクラシックまでオールマイティな舞台での活躍を期待しています」と加治屋マネージャー。昨年

の有馬記念ではハーツクライ産駒のドウデュースがドラマチックに締め、日本のトップサイアーが改めて存在感を示しました。2003年にこの世を去った父の産駒のなかでも筋肉量の多い馬体は子どもたちにも受け継がれていくことでしょう。

フランケル産駒の英ダービー馬アダイヤー、GI・6連勝を成し遂げたバーイードの全兄でシーザスターズ産駒のフクムという、欧州の各種牡馬の血を引く2頭も見逃せません。加治屋マネージャーも「フリーザンダンサー系のなかから



パレスマリス



ヨシダ

繋養されたジャパンCの勝ち馬アルカセットの1頭から始まり

ましたが、徐々に頭数を増やしてきました。スウィーニー代表は「種牡馬の頭数を増やして、全体的な種付け頭数も増やしたい」として2024年シーズンは、パレスマリス、ヨシダ、アダイヤー、フクムという新種牡馬4頭の導入を決定。14頭のラインナップとなり、2月5、12日まで計6日間の日程で行われたオープンハウス(種牡馬展示会)は約800人も関係者が来場。オープンハウスの開催10年目にしてこれまでの来場者数の記録を大

きく更新しました。

そのなかで最も熱い視線を集めたのがベルモントSなど米ダートGIを2勝したパレスマリス。昨年暮れに産駒のジャンタルマンタルが無敗で朝日杯FSを勝ってJRA最優秀2歳牡馬となり、ノーブルロジャーは年明けにシンザン記念を快勝。最高のタイミングでの導入となりました。「実馬を見ていただけるとお分かりになると思いますが、ダート馬らしくない馬体と動きで、改めて芝のレースで産駒が結果を残しているのがうなずけます」と話すのは加治屋正太郎

次世代を担う種牡馬が出てくると思っっています。日本人オーナーや調教師、牧場関係者、ファンは欧州のレース、なかでも凱旋門賞に注目していますが、日本の馬が凱旋門賞を勝つために必要な血がノーザンダンサー系だと思えます」と評価。日本で紡いだ欧州の血が世界の大舞台でも花開くことを楽しみに待ちたいと思います。

ダーレー・ジャパン史上過去最高頭数の種牡馬を集めたスウィーニー代表は、もちろん生産にも力を入れており、新たな目標を掲げます。「これまでタワオブロードンやファイニンードルといった短距離のチャンピオンや、JBCレディスクラシックを制したファッシュヨニスタなどの活躍馬を送り出し、昨年はレモンポップがダートのチャンピオンに輝きました。次に目指すべきは芝のミドルディスタンスのGIを勝てる馬をつくることだと思っっています」繁殖牝馬のレベルも年々底上げし、2023年12月31日現在で114頭を所有。新たなフィールドでのチャンピオンを送り出すべく、ダーレー・ジャパンは歩みを止めません。



02
特集

リニューアルオープン JRA馬事公苑

2020夏季オリンピック、パラリンピックにおいて馬術競技の会場としても使用された日本中央競馬会馬事公苑（東京都世田谷区）が23年11月、リニューアルオープンいたしました。



オープン初日の3日には、特別ゲストとして俳優の溝端淳平さんが来場。「オーブンニングセレモニー&トークショー」を開催。また、東京2020オリンピック選手による馬術エキシビジョン「DREAM HORSE SHOW」や「体験乗馬」「伝統馬事芸術流鏝馬」「ばん馬とミニチュアホースの展示」などの馬イベントを開催。3日間延べ6万5000人が足を運んで生まれ変わった馬事公苑を楽しみました。また、12月8日から10日にかけては内国産の乗用馬、引退競走馬限定の「JRAジャパンブリーダーズホースショー」が開催され、12月15日から17日までのスケジュールで元競走馬たちによる「引退競走馬杯ファイナル大会」も行われています。写真Ⅱ。

その引退競走馬杯の余韻冷めやらぬ12月21日、木村広報委員長が現地に足を運び、甲田啓馬事公苑長から説明を受けてきました。

馬事公苑は1940年の開苑以来、日本における馬事振興の拠点として馬術競技大会や馬にちなんだイベント、あるいは「せたがやふるさと区民まつり」の会場としても使用されてきました。その伝統を受け継ぎ、またオリンピックレガシーを活かして「馬のいる緑豊かな都市公園」を目指すといえます。限られたスペースではありますが、リニューアルされた馬事公苑をご紹介します。



甲田苑長から説明を受ける木村委員長



引退競走馬杯に出場したジナンボー（提供/全国乗馬倶楽部振興協会）



メインアリーナでは引退競走馬杯が行われた（提供/全国乗馬倶楽部振興協会）



自然林の中にある愛馬碑



はらっぱ広場にある馬のモニュメント



区民の憩いの場にもなっている「はらっぱ広場」



馬術大会のメイン会場となるメインアリーナ



普段は練習場として利用されるインドアリーナ。大会ではメイン会場として使用されることもある



2階部分はメインアリーナを望めるレストランもあるメインオフィス



乗馬気分を味わえるホースシミュレーターはメインオフィスにある



清潔感あふれる厩舎内



厩舎地区にはメイショウダッサイやディサイファなども繋養されている



カフェスタンドやキッズコーナーも設けられているメインオフィス1階



メインオフィス1階のホースギャラリー



厩舎地区横にはウォーキングマシンも備えられている



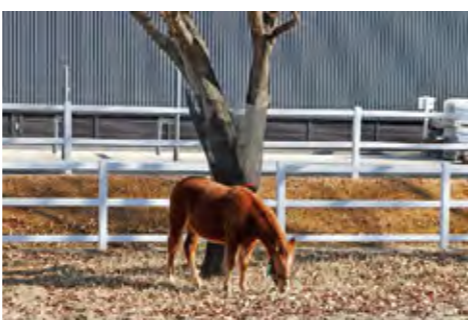
厩舎横では競技馬の削蹄、装蹄が行われていた



東京五輪開催を記念して設置された水飲み場



東京大会で使用されたダルマ



苑内には6か所の放牧場がある

2023年5月8日に、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、それまでの「2類相当」から季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行して初めての開催。札幌競馬場は、それを待ちわびる多くのファン、ご家族連れ、また海外からの観光客含む全国の方々にご来場いただきました。本当にありがとうございます。

そんな方々をお迎えする競馬場はたくさんのイベントを用意。中でも印象的だったのは7週間14日間で様々なジャンルの中から7人の方々がトークショーを行ってくれたこと。JRA年間プロモーションキャラクターの佐々木藏之介さんはじめ、冬季五輪金メダリストの高木菜那さん、あるいはお笑い芸人の小島よしおさんなど競馬ファンの方々はもちろん、今はまだあまり競馬に興味が無い方にも札幌競馬場という空間をお楽しみいただけないかと思っております。

また、開催を通しておこなれた尾形藤吉展は日本競馬の礎を築いた偉大な調教師とその系図を知るうえで大きな役割を果たしましたし、キャラクターショーやお楽しみ抽選会、バックヤードツアーなど賑やかな開催となりました。

その一方で、全国的に猛暑に見舞われた2023年夏。札幌も例外ではありませんでした。さすがに1日の平均気温が30度を超えたのは8月23日の1日だけでしたが、それでも北日本エリアの月平均気温は統計開始以降で最高を記録。来年の開催に向けて課題が残る1年でもありました。

03
特集

2023年 札幌開催回顧





14日間で21特別含む 44勝を記録

2023年もまた札幌馬主協会会員みなさまの所有馬たちは札幌開催で大活躍をしました。14日間すべてで勝利を記録。中でも開催メイン競走ともいうべき札幌記念では1、3着までを当協会会員所有馬で独占しました。それを含め合計44勝。これは、昨年の38勝を大きく上回り、開催が14日間となった2020年以降では最多勝。それだけでもすごいことではありますが、さらに特筆すべきは44勝の中で21もの特別競走が含まれていること。改めてお祝い申し上げます。

その記念すべき初勝利は、開幕初日の第7競走に出走した浅沼廣幸さん所有のデルマヤクシ（牡5歳、父オルフェーヴル）でした。この日は、函館開催からの3連闘というロテーションでしたが、馬は元気一杯。好スタートを切ったもののいつもの後方マイポジション。開幕週とあって飛ばす逃げ、先行馬をしり目に脚をためると最後の直線は大外か

らやや内に切り込みながらもメンバー最速の末脚で先頭ゴールインを果たしています。また、この日は第9競走に組まれていた北辰特別をビッグレッドファーム所有の英国産馬レイベリングが、メイン競走TVh賞をゴドルフィン所有のエクセトラが未勝利時代以来となる芝1200競走をもとめせず差し切り勝ちを演じています。

2日目には数々の名馬たちが勝ち馬に名を連ねる芝1800メートルデビュー。勝ったのは吉田勝巳さん所有のステレンボッシュでした。祖母のランズエッジがディープリンパクトの半妹という血統のエピファネイア産駒。最初のコーナーで大きく外に振られる不利がありました。持ち前のセンスを生かしてすぐにかぶり。最後は逃げた馬を楽に交わして先頭ゴールイン。6頭立てとはいえ紅一点での参加を感じさせない内容で初戦を飾っています。そして、この馬はのちに赤松賞に勝って阪神ジュベナイルフィリーズは勝ち馬と同タイム2着。桜花賞候補へと名乗りを上げています。また、この日もメイン競走「しらかばS」をゴド

ルフイン所有のシユバルツカイザーが勝利。開幕週は2日連続でメイン競走を制する幸先のよいスタートとなり、その勢いは最後まで衰えることなく結果的に全14日間のうち半数以上の8日間でメイン競走を当協会会員所有馬が制しています。

会員所有馬が 札幌記念に優勝

重賞競走には、延べ15頭が出走しました。最高峰レースの札幌記念には4頭がエントリーし、社台レースホース所有のプログノシスが見事に優勝。2着には安原浩司さん所有のトップナイフ、3着には社台レースホース所有のソーヴァリアントと上位3着までを当協会会員所有馬で独占する結果となりました。札幌記念を当協会会員所有馬が勝利したのは2015年のデイサイファ以来8年ぶりとなりました。

プログノシスは千歳市の社台ファーム生産馬。軽度な脚部不安を発症しデビューは3歳3月と遅れたものの、出走経験馬を相手にしたデビュー戦を快勝するといきなり重賞の

毎日杯に挑戦し3着とただならぬ素質を垣間見せてきた馬です。その後、しっかりと間隔を空けられながら条件戦を3連勝し、23年3月の金鯨賞で重賞初勝利。香港に遠征して挑んだクイーンエリザベス2世カップは追い込み届かず2着だったものの、帰国してこのレースを目標に調整されていました。その後は天皇賞・秋3着、香港カップは勝ち馬にコンマ1秒と迫る5着。24年は大きな飛躍が期待される1頭です。

このほか、ブルースターズファーム所有のシナモンステックがキーンランドカップ2着、谷掛龍夫さん所有のコスタボニータがクイーンステークス3着と高いレベルで活躍しています。

また、リステッドレースの札幌日経オープンに勝ったのは岡田牧雄さん所有のブローザホーンで、2着も当協会所有馬。大きな舞台でワン・ツー・フィニッシュを決めています。その後、ブローザホーンは日経新春杯に優勝するなど、こちらも期待が膨らむ1頭です。



有のコスモデザイナー。メイクデビュー1福島を勝ったのちに北上。コスモス賞は、のちに朝日杯フューチャリティS2着馬の後塵を拝しました。が、クローバー賞を勝って暮れの阪神ジュベナイルフリーーズへと駒を進めています

WASJ2023開催 総合優勝は岩田望来騎手

2015年、札幌競馬場で行われるようになった「ワールドオールスタージョッキーズ」は、米国や欧州、南半球からより優れられた6人の外国人ジョッキーと、地方競馬ジョッキーズチャンピオンシップ2023総合優勝を果たした高知競馬の宮川実騎手を加えたWASオールスター選抜チーム7人と、22年のMVJ受賞騎手のC・ルメル騎手や勝利度数関西1位の川田将雅騎手、同関東1位の横山武史騎手などJRAが定める規定に基づいて選ばれたJRA選抜チーム7人に分かれて技術を競いました。

結果は4戦して2着1回3着2回と堅実にポイントを積み重ねた岩田望来騎手が、56点を獲得。最終的に

上位3人が1点差という大接戦を制し、史上初めて未勝利で優勝しました。2位にはオーストラリアから参加したレイチエル・キング騎手が1勝2着1回ほかの55点。3位は連覇を狙った武豊騎手が1勝3着1回ほかで54点を獲得しています。岩田騎手は「最高です。できれば1着を取って優勝したかったです。レースでは普段通りの競馬を意識して臨みました。

海外のジョッキーや日本のトップジョッキーと乗れてとても楽しかったですし、充実した4戦だったと思います。大舞台で活躍できるようにこの秋頑張りますので、応援よろしくお願いします」と、広報を通してコメントしています。

なお、チーム対抗では235ポイントのJRA選抜が、213ポイントのWAS選抜を抑えて優勝。こちらにも接戦になりましたが、7年連続で優勝となりました。

横山騎手が3年連続3度目の 開催リーダーディングジョッキー

開催リーダーディングの騎手部門は昨年と同じ22勝をあげた横山武史騎手



が16勝の武豊騎手、13勝のC・ルメル騎手を抑えて3年連続3度目の受賞。調教師部門は7勝の須貝尚介調教師が2年連続3度目のトップトレーナーとなっています。

なおリーダーディングオーナーは札幌記念など3勝を挙げて約1億5000万円の賞金を獲得した社台レースホースが、同じ3勝のサラブレッドクラブ・ラフィアンを賞金で上回りました。なお、最多勝オーナーはゴドルフィンでした。

また開催リーダーディングサイアーは、産駒が1億3517万5000

円を稼いだドゥラメンテが、昨年の首位デイリーインパクトをわずかに抑えて首位に。リーダーディングブリーダーは25勝、4億円あまりの賞金を稼ぎ出したノーザンファームが社台ファームを抑えてトップブリーダーとなっています。

7週間14日間の開催で競馬場に足を運んでいた方は前年を4万人ほど上回る18万3322人。それに伴い馬券発売額も好調で14日間のうち10日間で前年を上回る売り上げを記録するなど、総売り上げは1270億7130万5200円。前年対比103.8%を記録しています。

開催終了後、越智場長は「とくに後半は暑さがこたえる様な開催となりましたが、人馬ともに大きな事故なく開催を終了させることができました。ほっとしています。たくさんのご来場者の方々が、いろいろな楽しみ方をしていたのが印象に残ります。また、ワールドオールスタージョッキーズではジョッキーカーメラを導入するなど、新しい楽しみも提供できたのではないかと思います」とホットな開催を振り返ってくれました。

リーディングジョッキー
(勝利回数順)

順位	騎手名	騎乗回数	1着	2着	3着	取得賞金(円)
1	横山武史	119	22	22	16	360,220,000
2	武豊	82	16	6	4	236,530,000
3	C.ルメール	68	13	10	7	200,630,000
4	丹内祐次	127	7	18	14	208,850,000
5	佐々木大輔	133	7	7	16	120,750,000
6	浜中俊	46	6	6	3	151,800,000
7	鮫島克駿	108	6	5	11	136,970,000
8	J.モレイラ	31	6	4	4	84,810,000
9	北村友一	55	5	5	6	72,030,000
10	横山典弘	37	5	4	4	72,880,000

リーディングトレーナー
(勝利回数順)

順位	調教師名	出走回数	1着	2着	3着	取得賞金(円)
1	須貝尚介	29	7	4	3	87,930,000
2	鹿戸雄一	21	6	3	1	107,500,000
3	武幸四郎	27	5	4	0	90,190,000
4	伊藤圭三	21	4	5	2	45,900,000
5	大竹正博	17	4	1	2	83,500,000
6	吉村圭司	16	4	1	1	54,500,000
7	藤岡健一	20	4	0	1	41,480,000
8	菊川正達	17	3	5	2	39,600,000
9	昆貢	20	3	3	4	77,700,000
10	矢作芳人	42	3	3	1	45,250,000

2021年札幌開催成績表

開催	日	売上(円)	前年比	入場者	前年比
第1回札幌競馬	1日目	6,676,735,200	124.8%	13,723	191.8%
	2日目	7,286,456,400	118.6%	13,569	125.2%
	3日目	8,769,822,000	103.2%	10,145	116.4%
	4日目	13,976,967,200	107.5%	13,582	116.3%
	5日目	8,836,313,200	106.7%	8,453	108.0%
	6日目	12,871,998,400	98.4%	9,890	102.2%
小計		58,418,292,400	107.5%	69,362	124.1%
第2回札幌競馬	1日目	6,062,795,500	96.8%	9,870	117.7%
	2日目	6,451,178,000	101.6%	11,590	123.3%
	3日目	6,121,969,700	105.7%	10,294	135.8%
	4日目	16,553,083,000	98.4%	26,627	170.6%
	5日目	6,545,572,500	104.5%	9,992	111.4%
	6日目	12,255,831,200	99.5%	10,878	83.6%
	7日目	7,850,762,100	100.0%	15,524	116.4%
	8日目	6,811,820,800	105.4%	19,185	123.5%
小計		68,653,012,800	100.8%	113,960	124.1%
開催合計		127,071,305,200	103.8%	183,322	124.1%

2023年
札幌開催ランキング

リーディングオーナー
(取得賞金順=付加賞金除く)

順位	オーナー名	出走回数	1着	2着	3着	取得賞金(円)
1	社台レースホース	43	3	2	7	149,640,000
2	サラブレッドクラブ	58	3	9	5	91,620,000
3	ゴドルフィン	39	6	1	1	89,100,000
4	嶋田賢	13	5	2	1	84,200,000
5	ビッグレッドファーム	22	5	2	2	83,030,000
6	ウイン	27	2	5	2	61,270,000
7	G1レーシング	39	5	1	2	60,730,000
8	岡田牧雄	23	2	3	1	60,210,000
9	サンデーレーシング	47	5	3	3	57,220,000
10	シルクレーシング	39	3	3	3	55,910,000

付加賞金

リーディングサイア
(取得賞金順=付加賞金含む)

順位	父馬名	出走回数	1着	2着	3着	取得賞金(円)
1	ドゥラメンテ	57	9	4	6	135,175,000
2	ディープインパクト	42	1	3	5	126,681,000
3	ヘニーヒューズ	36	8	2	1	113,882,000
4	ゴールドシップ	60	4	6	5	102,216,000
5	ハービンジャー	55	5	5	7	100,343,000
6	ハーツクライ	71	5	1	5	93,640,000
7	エピファネイア	55	5	5	6	93,436,000
8	ドレフォン	48	4	5	9	93,211,000
9	ジャスタウェイ	42	6	3	2	92,093,000
10	デクラレーションオブウォー(USA)	17	3	2	1	88,523,000

リーディングブリーダー
(取得賞金順=付加賞金除く)

順位	牧場名	出走回数	1着	2着	3着	取得賞金(円)
1	ノーザンファーム	287	25	20	24	401,310,000
2	社台ファーム	192	15	16	15	370,400,000
3	岡田スタッド	56	4	7	5	118,470,000
4	ビッグレッドファーム	51	4	6	5	116,070,000
5	辻牧場	27	5	5	3	79,810,000
6	下河辺牧場	37	6	5	1	70,270,000
7	三嶋牧場	33	2	4	4	67,080,000
8	コスモビューファーム	28	2	5	2	64,870,000
9	谷川牧場	8	3	0	0	56,500,000
10	社台 Cop.白老ファーム	50	3	3	3	55,610,000

開催中の出来事

○松田大作騎手がJRA通算500勝

7月29日、第1回札幌競馬3日目の第4競走3歳未勝利戦で松田大作騎手(栗東・フリー)騎乗のヒルノピレネ(牡3歳、栗東・北出成人厩舎)が勝利し、同騎手はJRA通算500勝。1997年3月1日の初騎乗(アップシャーディー)から数えて8859戦目での区切りの勝利となりました。現役では38人目。松田騎手は「ずっと勝つことができなくて、難しいのかなと思っていましたが、周りの人たちに支えられながら、ここまでやってこれた。これからは、目の前のこと一つ一つをいかにクリアしていけるかということしかないので、頑張ってやっていきたい」とコメントしています。



○横山武史騎手がJRA通算500勝

7月29日、第1回札幌競馬3日目の第11競走STV賞で横山武史騎手(美浦・鈴木伸尋厩舎)騎乗のサンストックトン(牡4歳、美浦・鹿戸雄一厩舎)が勝利し、同騎手はJRA通算500勝。2017年3月4日の初騎乗(ルーナデラセラー)から数えて4505戦目での区切りの勝利となりました。これは現役では39人目。横山騎手は「午前中のレースから、すぐにでも達成したいという気持ちでしたが、なかなかうまく乗れずにメインレースまで時間がかかってしまいました。表彰ではウイナーズサークルにたくさんの方が集まっていたので、感謝申し上げます。これから、もっともっと勝てるように頑張ります」とコメントしています。



○北村友一騎手が1万回騎乗

8月13日、第2回札幌競馬2日目の第6競走3歳以上1勝クラス戦に騎乗した北村友一騎手(栗東・フリー)は、これがJRA通算1万回目の騎乗。2006年3月4日の初騎乗(ソリッドスイート)以来、17年と5か月10日での記録達成となりました。史上51人目、現役では35人目。記録達成当日でJRA通算838勝。クロノジェネシスによる宝塚記念、有馬記念など5つのG1競走含む重賞27勝を記録しています。北村騎手は「たくさん乗せていただき、感謝しています。少しでも良い結果を残せるよう、これからも努力していきたい」とコメントしています。

○馬連、馬単、3連単の史上最高配当飛び出る

8月20日、第2回札幌競馬6日目の第7競走3歳以上1勝クラスで14番人気ワレハウミノコが勝利。2着には16番人気シャドウエリスが入り、3着にも9番人気ポーレットが粘り、馬番連勝式馬券は28万6010円。馬番単式馬券は60万3270円、3連単は3360通り中3282番人気の1773万円。それぞれ式別毎の札幌競馬史上最高配当を更新しています。

○菊川正達調教師がJRA通算300勝

8月27日、第2回札幌競馬6日目の第6競走3歳未勝利戦で菊川正達厩舎所属のブラックヴァール(牝3歳)が勝利し、同調教師はJRA通算300勝。2001年3月10日の管理馬初出走(ヤワタセブン)以来、5890戦目での記録達成となった。これは現役では68人目。300勝の中にはオセアグレイトで制した20年ステイヤーズSやリンゴアメで制した20年函館2歳ステークスなど5つの重賞勝利が含まれている。



○ワールドオールスタージョッキーズ参加騎手が次々と

8月26日、第2回札幌競馬5日目のワールドオールスタージョッキーズ第1戦で、1番人気ドーバーホーク(牡3歳、美浦・清水英克厩舎)に騎乗した英国出身の女性騎手R.キング騎手が1着となつて同騎手はJRA初勝利を記録しました。また、その翌日の同3戦では2番人気ナチュラルハイ(牡3歳、美浦・黒岩陽一厩舎)に騎乗した仏国出身の女性騎手M.ヴェロン騎手が、また同4戦では7番人気のフェステスバント(牝3歳、栗東・藤岡健一厩舎)に騎乗した仏国出身のA.バデル騎手が、それぞれ初勝利を記録しています。





J R A 札幌競馬場場長
植田 嘉奈子氏
う えだ か な こ

京都府出身。大阪大学人間科学部卒業後、平成3年日本中央競馬会に入会。施設部施設総務課長、福島競馬場副場長、総合企画部経営企画室長などを歴任。令和6年、J R A史上初の女性場長として札幌競馬場場長に就任。

J R A日本中央競馬会3月1日付け人事で、前経営企画室長の植田嘉奈子さんが、札幌競馬場の場長に就任した。北海道地区勤務は2005、06年に函館競馬場の会計課長を務めて以来、2度目だという。

「京都府出身。競馬とはまったく無縁で、新場長の言葉を借りれば「むしろ保守的な家庭」に育ったというが、大阪大学在学中にアルバイト仲間から誘われて足を運んだ京都競馬場でパドックを歩くサラブレッドの美しさと、まだ昭和の競馬場が醸し出していた鉄火場の雰囲気魅了されたという。

「そんなに大きな声を出しても、それが当たり前。応援する馬が勝てば素直に喜び、負ければ口惜しさを爆発させる。そんな大人たちの無邪気な行動はすごく新鮮でした。」

「やがて足繁く競馬場に通うようになると自然と応援する馬が出来て、騎手の名前も覚えるようになる。」

「なんで、私が思うような乗り方をしてくれないだろう」という思いが募り、乗馬を始めるも、それでジョッキータチの苦労を知り、馬たちの手入れをすることで美しいだけではなく、激しさを併せ持った馬という存在を知ることになる。見るもの、聞くものすべてが初めての世界。「この馬たちは、どこで生まれて、どういう風に育っていくのだろう」と好奇心が高まり、アルバイトでお金が溜

まれば北海道馬産地へ。牧場巡りを始めたころはまだ「競走馬のふるさと案内所」がない時代。わずかな情報から知りえた住所だけを頼りにアポなし訪問は当たり前だったというが「当時は牧場巡りをするファンは少なかったこともあってどこの牧場へ行っても珍しがられ、親切にしてもらえました。そんな牧場の人たちが大好きになりました。」

J R A日本中央競馬会が女性総合職の採用を始めて3年目となる平成3年入会。最初に配属された番組企画室で興行としての競馬を知る。「配属を聞いたときは、番組作りの現場を見ることができると大喜び致しましたが、毎日読み合わせと検算に追われました。でも、競馬の番組がどうやって作られているのかを知りました。」

「その後、施設部施設総務課長時代に京都競馬場の全面改築工事の担当者として尽力し、前職の経営企画室長時代には競馬場だけではなくサークル全体で働き手不足、担い手不足に陥っている問題に直面した。「大好きだった牧場が困っている」と積極的にセリ場にも足を運び情報を収集。その根底には人口減少という如何ともし

「多岐にわたる業務をこなす中で、お仕事を任せていただきありがとうございます。札幌競馬場は10年ほど前にウインズ札幌での勤務経験があり二度目となりますが、当時お世話になった方々とあらためてお仕事ができるといふ縁に感謝しております。」

「本年は競馬の国際会議が初めて札幌で開催されるという記念すべき年ということで、札幌競馬場をアピールする絶好の機会と思っております。チーム札幌が一丸となって取り組むことにより、未来につながる成果を上げることができるよう、努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。」

「来年は競馬の国際会議が初めて札幌で開催されるという記念すべき年ということで、札幌競馬場をアピールする絶好の機会と思っております。チーム札幌が一丸となって取り組むことにより、未来につながる成果を上げることができるよう、努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。」

「来年は競馬の国際会議が初めて札幌で開催されるという記念すべき年ということで、札幌競馬場をアピールする絶好の機会と思っております。チーム札幌が一丸となって取り組むことにより、未来につながる成果を上げることができるよう、努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。」

新場長紹介

J R A 札幌競馬場 新任のごあいさつ

副場長

福田 敬氏
ふくだ たかし



2024年3月の人事異動で情報システム部システム統括課から着任いたしました。札幌勤務は10年ほど前にウインズ札幌での勤務経験があり二度目となりますが、当時お世話になった方々とあらためてお仕事ができるといふ縁に感謝しております。

総務課長

古田 宣紀氏
ふるた のぶのり



2023年3月から総務課長を務めております古田です。初めての札幌勤務は様々な方との出会いも多く、振り返ればあつという間の一年間でした。昨夏の札幌開催時においては、馬主の皆様が競馬を存分に楽しんでいらっしゃる様子を見ながら、逆こちらが元気をいただきながら、楽しく仕事をさせていただきました。

札幌、そして北海道には世界中の人々を惹きつける魅力があります。(私もすっかり魅了された一人です。)そのブランド力も活かしてドヴィル、グッドウッド、サラトガなどにも負けない夏のリゾート開催として、もっと素敵な、誰もが楽しめる札幌競馬場を目指して頑張りますので、存分にお楽しみいただければと思います。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

【略歴】平成12年入会。京都競馬場、広報部、W神戸、総合企画部、N Y事務所、東京競馬場、国際部、ロンドン事務所を経て、国際部国際企画室から昨年札幌に異動。神奈川県生まれ。

総務課担当課長

北村 昭彦氏
きたむら あきひこ



2023年3月から総務課担当課長を務めております。札幌競馬場の新スタンドが竣工した2014年の開催では広報部の一員としてグラントオープン取材対応に奔走した思い出があり、その札幌競馬場で勤務できることを大変嬉しく思っております。

本年はA R Cも開催され、国際色豊かな競馬開催になることと思っておりますが、私も可能な限り札幌競馬場の魅力を発信できるよう微力ながら尽力していく所存ですので、札幌馬主協会の皆様からのご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

【略歴】平成20年入会。経理部、京都競馬場、ウインズ八幡、広報部、函館競馬場、ウインズ部を経て、施設部施設総務課から昨年札幌競馬場に異動。大阪府生まれ。

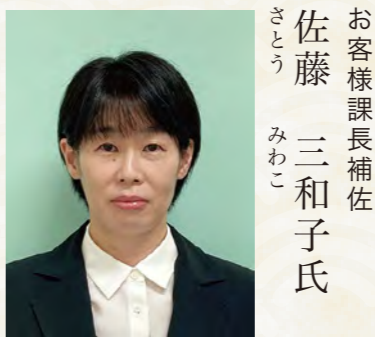


お客様課長
加藤 巖氏
かとう いわお

本年3月の定期人事異動で中山競馬場総務課から着任いたしました。前職ではイクイノックス・タイトルホルダー・パンサラッサの引退式を担当させていただきましたが、偶然にも3頭の種牡馬を追いかける形で自分も馬産地に近い札幌競馬場で勤務できることを大変嬉しく感じています。

接客・販売・イベントを担当する部門としてお客様が安心してお楽しみいただける環境を整え、札幌競馬をきっかけとして競馬ファンのみならずファミリー層など多くのお客様に競馬界・競馬産業に興味を持っていただけるよう精一杯取り組んでまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

〔略歴〕平成13年入会。人事部、阪神競馬場、経理部、総務部、ウインズ広島、人事部、美浦トレーニングセンター、JRAファシリテーター出向、プロモーション部、中山競馬場を歴任。愛知県生まれ。



お客様課長補佐
佐藤 三和子氏
さとう みわこ

昨年3月からお客様課長補佐を務めております。平成16年の3連単先行発売プロモーションで初出張以来、念願だった札幌勤務の昨年は生産地も近い最前線の地で、経験できる全てが新鮮で学び多き一年でした。

本年はアジア競馬会議札幌開催も控えております。札幌競馬場の魅力が一つでも一人でも多くの方に届くよう精一杯努めて参ります。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

〔略歴〕平成14年入会。栗東トレーニングセンター、ファンサービス事業部、経理部、中京競馬場、ウインズ新横浜、施設部、競馬学校、新潟競馬場を経て、ウインズ石和から昨年札幌競馬場に異動。千葉県生まれ。

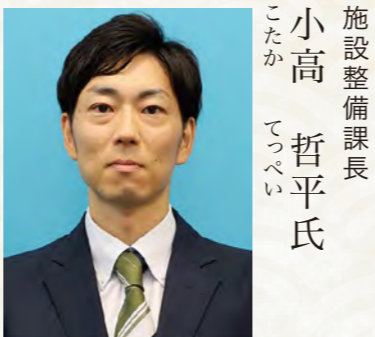


業務課長
山崎 浩二氏
やまさき こうじ

本年3月の定期人事異動で競走部企画室企画課から着任いたしました。札幌競馬場の勤務は初めてとなりますが、出張で訪れた際に感じた魅力ある札幌競馬場で勤務できることを嬉しく思っております。

新しい環境に早く馴染み、競馬場に来場されるお客様をはじめ、多くの方々に「馬産地に近い札幌競馬」の魅力を発信していけるよう努力してまいりますので、皆様方からのご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

〔略歴〕平成15年入会。総務部、栗東トレーニングセンター、小倉競馬場、競走部、情報システム部、栗東トレーニングセンター、新潟競馬場、競走部を歴任。愛媛県生まれ。



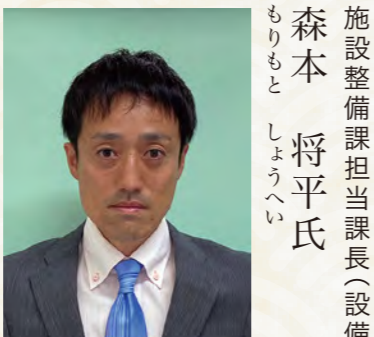
施設整備課長
小高 哲平氏
こたか てつぺい

本年3月の定期人事異動で施設部設備課から着任いたしました。

2019年から2年間日高育成牧場での勤務経験があり、当時は馬に囲まれた北海道生活を満喫しておりました。再び馬産地に近い、札幌競馬場に勤務できることを大変嬉しく感じております。

近年は、競馬施行における暑熱対策の重要性が高まっており、施設面での対応が不可欠となっております。人も馬も安全でかつ来場されるお客様にも満足していただける札幌競馬が開催できるよう、精一杯努めて参りますので、ご指導のほどよろしくお願い致します。

〔略歴〕平成17年入会。施設部、阪神競馬場、新潟競馬場、中山競馬場、施設部、日高育成牧場を経て、施設部設備課から本年札幌に異動。神奈川県生まれ。



施設整備課担当課長(設備)
森本 将平氏
もりもと しょうへい

令和4年3月の異動で札幌競馬場へ参りまして、令和5年3月から施設整備課担当課長を務めました。学生時代を過ごすなど、縁のある北海道で仕事ができる喜びを燃料に、より快適な施設づくりを目指してまいりました。

本年3月、本部施設部への異動が決まり、残念ながら札幌競馬場を離れることになりました。馬主の皆様を始めとする関係者の方々の競馬愛に彩られた、華やかな札幌競馬を思い出すと、誠に寂しい思いがいたします。在任中に賜りましたご協力に感謝申し上げますと共に、会員の皆様のご健勝並びに愛馬の活躍をお祈り申し上げます。

〔略歴〕平成21年入会。施設部、京都競馬場、福島競馬場、中山競馬場、美浦トレーニングセンターを歴任。秋田県生まれ。



ウインズ札幌所長
竹田 祐一郎氏
ただけだ ゆういちろう

本年3月の定期人事異動でお客様部 映像・ウェブプロデュース室ウェブサービス課より着任いたしました。

競馬サークルの一員として競馬の中心である北海道で勤務をしたという入会時よりの願いが叶う形となり、喜びと責任感を感じております。馬券を気軽に買える場所として、そして競馬や馬産地の良き広告塔となれるようウインズ運営に尽力してまいります。

会員の皆様と札幌競馬場職員のお付き合いの輪に加われるよう積極的に仕事をして参りますのでよろしくお願い致します。

〔略歴〕平成19年入会。阪神競馬場、お客様部、小倉競馬場、東京競馬場、人事部、京都競馬場を経て、お客様部ウェブサービス課からウインズ札幌に異動。神奈川県生まれ。

競馬、私の愉しみ方



安原 浩司さん

昨年は所有馬のファストフォースが高松宮記念を勝って、今春から種牡馬生活をスタートさせることになりました。所有馬が種牡馬となったのはシュウジに続いて2頭目です。これも、関係各位のみなさまのご協力の賜物と感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

私が馬主資格を取得しようと思ったのは、今から約20年ほど前です。当時、馬主として活動していた知り合いの方に声をかけていただいたのが、きっかけでした。

振り返れば、人に恵まれ、また運もよかったのだと思います。最初は恐る恐る少頭数からのスタートでしたが、安田伊佐夫調教師（故人）に管理いただいたシャイニングデイと名付けたメイショウオウドウ産駒が、武豊騎手を背に初勝利を記録することができました。新人馬主の初勝利が武豊騎手騎乗というのも、今にして思えば感謝しかありませんが、そ

エツトというのがあり、それを踏まえたいうえで、最終的には、その馬が発しているオーラのようなものを自分なりに感じとれるかどうかを決め手とすることが多いというのが正直なところですよ。もっとも、そんな心境に達することができたのは、ここ数年のことではありませんが。

ただ、そうは言っても、馬主は馬を購入することは出来ても、自分で育てる事はできません。私が、こうして馬主を続けていけるのは、愛馬たちを強く、たくましく育ててくれている厩舎関係者や牧場の方々のおかげと感謝し



シュウジ



ファストフォース

の初勝利を記録した日が3月15日。武騎手の誕生日ということもあって、その1勝は忘れられないものとなりました。武騎手にサインを入れていただいたそのゼッケンは、今でも大切に飾らしてもらっています。

あの勝利からもう間もなく20年という時間が経過しようとしています。愛馬のJRAでの延べ出走回数も1000回を超え、個人100勝という区切りの勝利も近づいてきました。その中からファストフォース、シュウジ、アンジューデジュール、ウエルドーン、そしてトップナイフといった馬たちにも恵まれ、彼ら、彼女たちとの配合馬に夢を膨らませる日々です。

競馬に対する考え方、馬主として競馬、競走馬とどう向き合っていくかは人それぞれだと思います。それが競馬の奥深さ、懐の広さだと考えておりますし、それがまた競馬の魅力だと考えています。

ています。

幸いにも、そうした中で、昨年はトップナイフのおかげで日本ダービーの舞台を味わうことができましたし、札幌記念にも出走馬主として参加することができました。とくにダービー当日の高揚感、それまでの人生では味わったことがないものでした。「もう1度、愛馬とともにあの舞台へと挑みたい」。それは、それまでは漠然としていた「夢」が「目標」へと切り替わった瞬間だったかもしれない。そんな元気を与えてくれた馬たちには感謝しかありませんが、気が付けばそんな私の周りに

私にとっての競馬は、人生に大きな喜びと達成感を与えてくれるものです。順調にいかない事の方が多い競走馬たちですが、その代わり他では味わうことのできない充実感を与えてくれます。だからこそ私は、そんなサラブレッドたちを少しでも理解したいと考えています。そういう努力をすることで、より深く競馬を楽しむことができているような気がします。もちろん馬券も楽しんでおりますが、それは、もしかしたら馬を購入するための練習なのかもしれないと自分では考えています。

そんな私が実際に馬を購入するときに最も大切にしていることは「第一印象」。もちろん、事前に血統を調べ、そして市場で購入する際はレポジトリーを確認しますが、馬と対峙した時のファーストインプレッションを大切にしています。正しいのか正しくないのかは分かりませんが、自分の中で好きな体型、シルは競馬ファンが増えました。牧場の方々、厩舎関係者の方々、ジョッキーのみなさんとの交流も深くなりました。みなさん気持ちの良い方ばかりで、彼らもまた私の人生を豊かにしてくれています。この場を借りて感謝申し上げますし、出来ることならお付き合いいただいているすべての牧場の生産馬で大きなタイトルに巡り合いたいなどと、夢を広げています。

そんな私も現在は、札幌馬主協会で役員という立場で競馬と寄り添う立場になりました。札幌競馬場は夏の北海道シリーズ開催中はもちろんですが、パークウインズ開催中も多くのファンの方々に足を運んでいただいております。そのような光景に思うことは、ファンの方々あつての競馬ということ。馬主協会としてそういった方々や、地域住民に対して、まだ何かできることがあるのではないかと思いますし、そんなファンの方々に愛されるような馬を所有してみたいとも考えています。例えば、愛馬のネーミングひとつにしても、ファンの方々の存在を意識したものとなっています。

そして、そんな自分たちの活動を通して競馬や、馬主に興味を持つ人が少しでも増えてくれたとしたら、望外の喜びであると、そう思います。

夢の実現



了德寺健二ホールディングス株式会社
了德寺健二さん

- 私の人生を振り返れば、真に夢を見続け、その実現に死力を尽くしてきたと言えると思います。その夢とは、
1. 柔道の金メダリストを育てる。
 2. 整形外科のチェーン展開を成功させる。
 3. 大学を設立する。
 4. 人々の夢。不老長寿を実現する医療技術の開発。
 5. 世界一速い競走馬を育成する。

で強豪チーム旭化成と接戦を演じるチームに変容させたのでした。又、個人戦でも、全日本実業団個人で全階級の半分を制覇したり、オリンピック候補選手を育てあげたりしました。

しかしながら、小職の夢みたオリンピック金メダリストの育成は、会社への専門部申請がかなわず、ならば自分個人でなすと決意退職し、次のステップへ移っていったのでした。

判り易く言うなら、投薬二辺倒の医療にハリやマッサージを導入した、いわゆる痒い所に手の届く医療を目指したのです。

更に、整形外科に内科を入れた整形外科内科の展開でした。今でこそ整形外科内科の標榜は良く見られますが、その標榜の先駆者は小職なのです。この医療体制は、千葉県を中心に広く理解が深まり、開業したら必ず成功する成功パターンを作りあげたのです。

東京両国の地に開校して、高等教育経営の端にいたったのでした。その5年後、2005年に艱難辛苦を乗り越え、千葉県浦安市に了德寺大学を開学しました。

少子化に併って、定員割れや赤字経営が広がる中であって、当大学は苦しみながらも、5年後には定員の完全充足と併に黒字経営を果たしたのでした。

【夢の実現】

私の青春は、柔道二直線でした。川崎製鉄ではプレイングマネージャーとして奮闘し、市民大会でも勝てないチームを全日本実業団二部

川崎製鉄千葉製鉄所を退職し目指したものは、西洋医学と東洋医学の折衷をなしたとげた整形外科のチェーン展開でした。

今まで16ヶ所、整形外科を開院し、全て成功に導き、次のステップ最高学府を作りあげる素地を作ったのでした。

この頃、最高学府を作り上げるワンステップとして、専門学校2校を

大学の理事長、学長も兼務しながら力を注いだのは、自身が発見開発したストレスフリー療法の研究の深化でした。

更には、柔道のオリンピック金メダリストの育成だったのです。

ストレスフリー療法とは米国の医師BOバーンズ博士の著書に示唆を受け、人類の未知の体表点6ヶ所に、48℃未満の遠赤外線を照射する人体にやさしい治療法です。

今から100年前から、人類の病気はストレスによるというストレス病因説が、証明され尽くしてきたと言っても過言ではありません。

ストレスフリー療法は、ストレスによつて上昇する血中のコルチゾールを瞬時に低減させると共に、以下のような現代医学がなし得ない卓越した医療効果を発揮します。

- ①末梢の血流をわずか1分で2倍から10倍増幅し体温を上昇させる。
- ②ガンや糖尿病等の疾病特有の酸化性化した血液のPHを100%正常化する。
- ③老化や病気の根源とされる酸化ストレスを低減させる。
- ④老化や病気の原因となる成長ホルモン分泌減少を食い止め、成長ホルモンの分泌亢進を起こす。

⑤老化防止や、全ての疾病予防に重要な役割を担う、女性ホルモンエストロゲンの分泌亢進が起きる。

⑥抗炎症化を担うタンパク質IL10が発現する。

以上のような卓越した医療効果を発揮するストレスフリー療法は、高血圧症や糖尿病などの生活習慣病はもちろんのこと、パーキンソン病や白内障、老眼などにも著しい効果が確認されており、研究の深化が期待されています。(尚、当研究は欧米の科学ジャーナルに八編の論文が採択されています。)

このように現代医学がなし得ない卓越した医療効果が評価され、大阪大学・国立香川大学医学部教授方との共同研究が始まっております。

整形外科を中心とする医療法人の管理経営にストレスフリーの研究開発、大学の理事長、学長としての業務は連日多忙を極めていました。

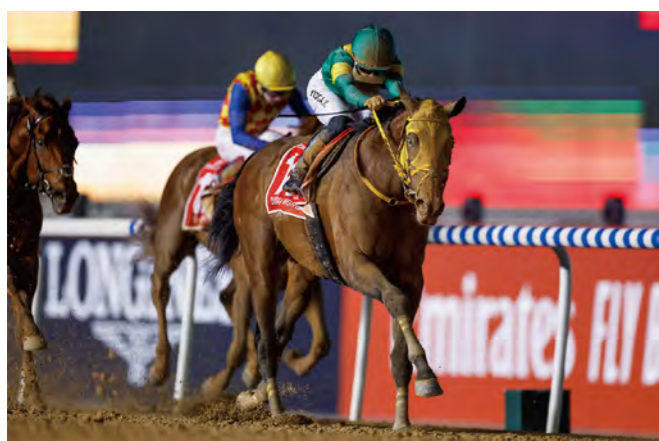
その頃から75歳で大学理事長を退任して、生涯ワクワクする生き方を模索していました。そんな折、競馬好きの職員から「理事長、馬主になりませんか？」と提案されたのです。

その時、瞬時に「これだ！」と反応したのでした。

馬券を買ったこともありませんでしたが、瞬時に世界一速い馬を育てようと誓ったのです。

その為には、何を指針にし成功できなかったら成功はできないと考えていました。馬主になったその年には、アイルランドの生産馬セールに出向き、二頭購入してきたのでした。

更にその後、米国、南米、欧州と、二歳馬や生産馬を購入し、現在生産馬57頭中8割が外産馬と言う独自のスタイルをなしています。



ウシュバテソーロ 2023年ドバイワールドカップ制覇

そして牧場を作る為に東奔西走し、北海道門別町に約100ヘクタールの畑を購入し牧場作りがなされたのです。

馬に関して全くの素人ながら今までの趣味の錦鯉の育成や、医学研究者としての経験から決して譲れない条件がありました。

それは広さでした。

何故なら素人ながら「競走馬の能力の開花は、幼少期から青年期の運動量の総和である。」つまり鉄は熱いうちに打てと言う小職の仮説があったのです。

又、生物は一定の密度を超えると自然淘汰が起きることは、良く知られた現象なのです。

そのような背景から、小職達の牧場の一区画二区画は、5ヘクタールから10ヘクタールとなっています。

そして配合は徹底した選択と集中であり、小職が決定します。

3年前にはスワーヴリチャード10頭、2年前はフィエールマン10頭と集中させると共に自己所有馬の種牡が存在します。それらは重賞制覇や



勝利数とかに関係なく、小職が理想とする馬であり、現在3頭所有します。

そして配合の3割が自家所有種馬の配合であり、今後とも今は現役のオーロラテソーロ、ウシユバテソーロ、ウイルソンテソーロなどの現役馬が自家生産の中心になっていくと思われれます。

又、実業団柔道や柔道金メダリストの育成、さらに実業家としての成功から学んだものは、全員一致したチームワークの醸成や目標の設定であり、全員の祈りにも似た思いの強さが必要なのです。

今、私たち牧場の目標は全員一致して、世界一速い馬を作ることなのです。

そして牧場の運営が始まる時に改めて思ったことは、このスタッフ達を幸せにしなければ、この牧場は成功しないなど責任の重さを感じたのでした。

私達牧場の二期生は3年前に、8頭デビューしましたが、その1頭にウイルソンテソーロがいました。

ウイルソンはデビュー直後こそ低迷しましたが、4連勝でオープン入



りの後、重賞3連勝やチャンピオンズカップ、東京大賞典2着など、徐々に能力を開花させつつあります。

又、これらの活躍が認められ、ドバイのワールドカップの招待状を頂き、我がチームのエース、ウシユバテソーロと共に、日本代表馬として、我がチームから2頭ドバイに向かうことになりました。

9年前に大学職員から馬主を推められ、瞬時に応諾し今日に至りました。

その間、社台ファームの吉田照哉会長、ノーザンファームの吉田勝巳代表方々には並々ならぬ薫陶を賜わり、又、J A門別本間充組合長には、微に入り細に入りご支援を賜りました。

又、高木調教師、畠山調教師他多数の調教師の先生方とは今や、ビジネスのパートナーを超えて親交が深まり、厚い信頼関係を構築されつつあります。

又、川田ジョッキー以下、若手のジョッキー方とも厚い信頼関係の醸成を希望しております。

競馬とは調教師、ジョッキー、育成牧場、馬主とのハーモニーによって開花すると考えています。

死ぬまでワクワクして生きたいと願って始まった馬主家業、連日、若々しい広瀬祥吾副社長やワイズバードレーシングマネージャー夫妻方達との交流は、夢と希望の語り合いで果てることはありません。

今日も明日も、死ぬまでワクワクしながら夢を追いかけて、生きたいと願っています。

令和5年 通常総会開催

一般社団法人札幌馬主協会(岡田牧雄会長、会員総数250人)は2月22日、第12回通常総会(通算第75回)を京王プラザホテル札幌で開催しました。

今年も新型コロナウイルス感染症対策が施される中での開催となりましたが、184名(本人出席28名、委任状提出156名)が出席し、盛況のうちに終了させることができました。

総会に先立ち永年在籍会員表彰では平成14年に入会したフジワラ・ファーム(藤原俊哉氏) 丸村村下ファーム(村下喜八氏)を表彰しま



した。長年にわたり協会運営にご協力いただきましたことを改めて御礼申し上げます。

総会は、定款ののっとり岡田会長を議長に、議事録署名人には高岡浩行、泉敏雄両氏を指名して進行。「令和4年度貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)は賛成多数により、原案通りに可決、承認。また「令和4年度事業報告」「令和5年度事業計画書及び収支予算書」が報告されました。

出席会員からは、社会貢献事業について「助成の対象となるのは固定資産に限るのか」「働き手不足が問題になっているのは共通課題と思うが、岡山県の蒜山でふるさと納税を使って馬を扱える人間の育成をしている。そういう活動はほかに

も全国にたくさんある。そういうことも知ってほしい」などの発言がありました。

岡田会長 あいさつ

本日は、お忙しい中、総会にご出席をたまわりました誠にありがとうございます。

さて、昨年(*2022年)11月、馬産地への支援措置の恒久化、地方競馬の活性化に向けた支援措置の拡充などを盛り込んだ改正競馬法が参院本会議で可決、成立しました。この法案成立によって、日本中央競馬会は、農林水産省から馬産地支援、地方競馬支援を強く提言されているという認識を持っているようです。

昨年、この総会において会長を任命され、1年が経過しました。その間にさまざまな会議に出席させてもらう中で思うことは、札幌馬主協会は会員数としても、獲得賞金の面からも、いわゆる4大場と肩を並べるような実績があるにもかかわらず、いわゆるローカル競馬場としての立ち位置に甘んじているとい

うことです。世界中、どの国へ行っても競馬の中心は馬産地です。日本では4大場を中心に競馬が行われておりますが、今回の競馬法改正を追い風として、札幌馬主協会としては札幌競馬、函館競馬、そしてホッカイドウ競馬と連携を強くして馬産地競馬を盛り上げ、私たちの悲願でもある札幌でGI競走を、そして国際招待競走を行いたいという気持ちで活動していきたいと考えています。

また、引退名馬のセカンドキャリア、サードキャリアについての機運が高まっています。現在はジャパンスタッドブックインターナショナルを窓口中央競馬馬主相互会の事故見舞金予算の余剰分を原資として月額3万円、あるいは2万円が引退名馬に対して交付されておりますが、これは私たちが関与できる競走馬事業費ではなく、競馬会独自で判断する競馬事業費から捻出されるものです。このあたりの経緯をご存知ない方も多いと思いますので、文章で示すように指示しました。お示ししたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

令和4年度事業報告

1. 総 会

通常総会

日時 2月24日(木)15時
場所 京王プラザホテル札幌
議題

(決議事項)

議案第1号

令和3年度貸借対照表及び損益計算書

(正味財産増減計算書)の承認

議案第2号

役員改選

報告事項)

①令和3年度事業報告

②公益目的支出計画実施完了

③令和4年度事業計画書及び収支予算

書

出席者 21名委任状 173名計1
94名会員総数 242名

2. 協会運営委員会

第1回協会運営委員会

日時 1月13日(木)12時30分
場所 京王プラザホテル札幌
議題「第1回理事会付議案件について」
など8議題

第2回協会運営委員会

日時 1月19日(水)最終監査終了後
場所 札幌馬主協会事務室
議題「第1回理事会付議案件について」
など3議題

第3回協会運営委員会

日時 2月24日(木)13時
場所 京王プラザホテル札幌
議題「通常総会について」など4議題

第4回協会運営委員会

日時 3月17日(木)12時
場所 札幌馬主協会事務室
議題「常務理事の選定について」など11議

題

第5回協会運営委員会

日時 10月28日(金)中間監査終了後
場所 札幌馬主協会事務室
議題「当面の諸問題について」など2議

第6回協会運営委員会

日時 12月9日(金)16時
場所 札幌パークホテル
議題「令和5年度の事業計画について」な
ど3議題

3. 理事会

第1回理事会

日時 1月20日(木)12時30分
場所 京王プラザホテル札幌
議題「令和3年度事業報告
並びに貸借対照表及び損益計算書

(正味財産増減計算書)の承認につ
いて」など9議題

議題「札幌競馬開催について」など7議
題

1) 総務・広報委員会

総務・広報委員会を5回開催し、委員
会に係る予算・決算、会員の入会及び
異動に関すること、会報「北の蹄跡」の
発行、寄贈賞(札幌馬主協会会長賞)
並びにホームページの運用などについ
て協議しました。開催日・3月18日
(金)・4月15日(金)・6月15日(水)・
11月4日(金)・11月11日(金)

第2回理事会

日時 2月24日(木)14時
場所 京王プラザホテル札幌
議題「役員改選について」など5議題

第6回理事会

日時 7月15日(金)14時
場所 札幌競馬場4F馬主エリア
議題「札幌競馬開催について」など8議
題

第3回理事会

日時 2月24日(木)
場所 京王プラザホテル札幌
議題「会長及び副会長の選定について」な
ど4議題

第7回理事会

日時 11月11日(金)12時30分
場所 京王プラザホテル札幌
議題 令和5年度事業計画及び収支予算案
について」など9議題

2) 事業サービス委員会

事業サービス委員会を5回開催し、委
員会に係る予算・決算、会員懇親会、
愛馬会、会員研修旅行及び馬産地懇談
会の実施について協議しました。開催
日・3月18日(金)・4月15日(金)・
6月3日(金)・7月22日(金)・10月
31日(月)

第4回理事会

日時 3月18日(金)12時
場所 京王プラザホテル札幌
議題「常務理事の選定について」など10議
題

第8回理事会

日時 12月9日(金)16時30分
場所 札幌パークホテル
議題「令和5年度事業計画書(案)及び収
支予算書(案)の承認について」な
ど6議題

3) 社会貢献委員会

社会貢献委員会を4回開催し、委員会
に係る予算・決算、(公財)中央競馬
馬主社会福祉財団助成金及び札幌馬主

第5回理事会

日時 6月15日(水)16時
場所 京王プラザホテル札幌

4. 各委員会の開催

協会社会貢献事業について協議しました。開催日・3月18日(金)・7月22日(金)・10月14日(金)(書面表決)、11月11日(金)

また、(公財)中央競馬馬主社会福祉財団助成金の推薦を行う同助成金推薦委員会を1回開催しました。

開催日・7月29日(金)

・(公財)中央競馬馬主社会福祉財団助成金決定額3462万円(17施設)

・札幌馬主協会社会貢献事業

助成金100万円(1施設)

協賛金13万5000円(3活動)

*助成施設実地監査は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施せず。

4) 渉外委員会

渉外委員会を5回開催し委員会に係る予算・決算、会員還元事業(ビュッフェご利用券など)及びビュッフェを含む馬主エリアの円滑な運用などについて協議しました。また、馬場施設調査の

実施(7月15日・金)、及び随時札幌

競馬場や札幌グランドホテルとの打合

せを行いました。開催日・3月18日

(金)・4月14日(木)・7月7日(木)・

7月15日(木)・11月4日(金)

5) 競馬振興特別委員会

競馬振興特別委員会を2回開催し、委員会の予算・決算、ホッカイドウ競馬への支援について協議しました。

開催日・3月18日(金)・11月11日(金)

5. 事業の概要(所管委員会)

(1) 寄贈賞贈呈(総務・広報委員会)

第1回札幌競馬 エルムステークス競走(G

Ⅲ)(8月7日)

第2回札幌競馬 札幌記念競走(GⅡ)(8

月21日)

第2回札幌競馬 キーンランドカップ競走

(GⅢ)(8月28日)

第2回札幌競馬 農林水産省賞典札幌2歳

ステークス競走(GⅢ)

(9月3日)

(2) 会報「北の蹄跡」の発行(総務・広報委員会)

発行日:7月21日(通算第70号)

2023年2月20日(通算第71号)

配布先:会員、各馬主協会役員、JRA、

調教師、騎手、関係団体等

(3) 永年在籍会員表彰(総務・広報委員会)

永年(20年)在籍会員(平成13年入会者6会員)

秋谷 壽之氏

川越 敏樹氏

斎藤 光政氏

平岡 茂樹氏

林 孝輝氏

富田牧場 様

(4) 会員馬優勝記念品(総務・広報委員会)

日本中央競馬主催競走において、会員所有馬が優勝(第1着)した会員代表

者に記念品を贈呈。勝利数:586勝。

参加者 79名

題目『引退競走馬に関する日本国内における取り組み』

『競走馬への禁止行為』および「遺伝子改変馬」について』

(5) 愛馬会(事業サービス委員会)

日時 8月1日(月)12時12分スタート

場所 ザ・ノースカントリーゴルフクラブ

参加者 44名

(9) (公財)中央競馬馬主社会福祉財団助成金目録贈呈式(社会貢献委員会)

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

め中止

(6) 会員懇親会(事業サービス委員会)

日時 8月28日(日)18時

場所 京王プラザホテル札幌

参加者 177名

(10) 会員還元事業(渉外委員会)

①「ソフトドリンク券」の配布(1会員4枚/来場1日につき、札幌競馬開催日)

②「ビュッフェ利用券」の提供(1会員5枚)

(7) 馬産地懇談会(事業サービス委員会)

日時 10月31日(月)17時

場所 静内エクリプスホテル

講師 藤沢和雄 元調教師

進行 岡部玲子氏

参加者 120名

(11) ホッカイドウ競馬への支援(競馬振興特別委員会)

①北海道への支援 1550万円

②ホッカイドウ競馬支援室への支援(日高町へ寄付) 50万円

高町へ寄付)

高町へ寄付)

(12) 馬主研修会

(8) 会員研修旅行(事業サービス委員会)

「名古屋競馬観戦の旅」

日時 11月22日(火)〜25日(金)

場所 名古屋競馬場ほか

日時 7月15日(金)12時30分

場所 札幌競馬場4F馬主エリア

講師 JRA参与 西尾高弘氏、馬事部獣医 課長 加藤智弘氏

(14) 札幌競馬場主催行事等寄贈協賛

①札幌競馬場内花装飾(札幌競馬場エントランス、ハナミチ等)

②BOXティッシュ(ファンサービス用)

③札幌競馬場プロモーション用グッズ(馬型ミニケース)

④札幌競馬場エントランス・側面ガラスへの札幌記念勝利馬の装飾

⑤札幌競馬場4階馬主エリアビュッフェ備物品

⑥馬場浄め式 7月21日(木)11時

馬頭観音祭同11時30分

要 望 書

ここ札幌競馬場は1907年に、函館競馬場は1896年に現在地に設置されてから各競馬場は来年117年と128年を迎え、特に函館競馬場は日本に現在残っている競馬場のなかでは最も古い歴史をもつ競馬場です。

近年、北海道は国内外から注目され、温暖化による気温上昇が問題となっていることから、夏は冷涼で過ごしやすく、冬は雪文化を中心としたイベントなどにより、特に札幌はオリンピック開催都市、函館は世界三大夜景の街と認知されているところ。また函館は北海道と本州を結ぶ交通結節点であり、平成28年に北海道新幹線が開通、2030年以降には札幌に延伸予定され、空の玄関口として「新千歳空港・函館空港」があり、国内外から来道される人々にとって交通利便の良さがあります。

競馬に目を転じますと、函館は2010年、札幌は2014年に各々スタンド改築後、いまや札幌市・函館市にとって大変重要な観光資源となっておりますこと、貴会には深く感謝申し上げます。

「盛夏」の短い両市において両競馬場は、市民はもちろん全国からの観光客のみならず涼風を体感しながら「夏」を満喫できる「避暑地の憩いの場」であり、貴会が運営されている全国10競馬場の中でも、とりわけ女性や子どもたちの来場割合が高くなっております。「リゾート（保養地、避暑地）競馬場」の特色ある開催は、両市での特別なイベントであると認識しております。

今年の函館開催においては、コロナ禍前の通常運用に戻り函館記念（GIII）開催日には14,643人の競馬ファンが来場、ローシャムパーク号が勝利、その後オールカマー（GII）を勝利しました。また、札幌記念（GII）にはダービー馬シャフリヤール他GI馬3頭が出走し、プログノース号が優勝、白熱したレースがおこなわれました。その後、天覧競馬となった、天皇賞（秋）には同馬を含む4頭が出走し活躍しました。

活気あふれる北海道開催となりましたが、残念ながら現開催は、過去32日間開催されていた時より6日減の26日間で開催されているところでもあります。

北海道シリーズで出走した2歳馬及び古馬は秋の主場開催で好成績をあげ中央競馬を盛り上げていることは事実です。来年2024年には札幌にて第40回アジア競馬会議がおこなわれます。冷涼な気候で洋芝コースを持つ両競馬場は、アジア・オセアニアからの海外馬にとっても出走しやすい時期と立地を兼ね備えており、アジア競馬会議を契機とし、札幌記念・キーンランドカップなど同一週に複数のグレード競走を国際招待競走として充実を図ることにより、国際色豊かな夏の祭典となることは言うまでもありません。これまで以上に競馬の魅力を発信できる舞台になるものと確信しております。

長年に亘る貴会の札幌・函館競馬運営に対し、敬意を表しますとともに、今後の持続的発展に向け、札幌市、函館市、札幌観光協会とも引き続き、そのサポートに尽力させていただき所存でございます。

つきましては、以下の要望事項について何とぞ実現していただけますよう特段のご高配を賜りたく、宜しく申し上げます。

要 望 事 項

1. 北海道シリーズの開催日数の拡大と交互開催

- 開催日数を現行の「4開催26日間」から「4開催32日間」に戻し、北海道シリーズを充実していただきたい
- 北海道シリーズの充実した競馬施行と、良好な馬場状態維持・確保のため「札幌・函館交互開催」と、2歳の早期入厩促進と健全な競馬施行のため函館ウッドコース活用と、札幌と同時運用することにより、出走頭数の確保が可能となることから、開催期間中「札幌・函館両施設の同時入厩・退厩及びトレーニング施設」を全面開放していただきたい。

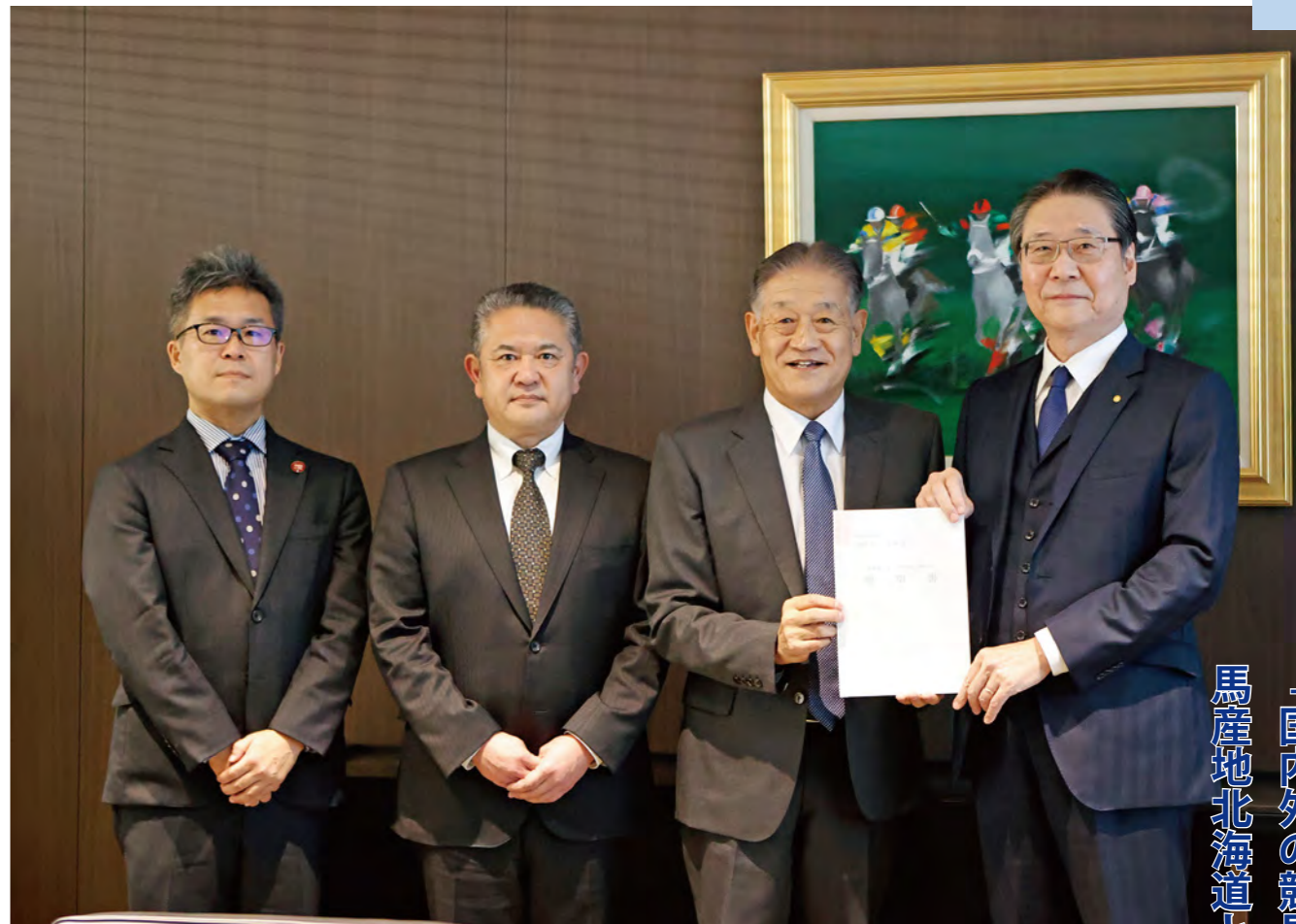
2. 国内外の競馬ファンに対し魅力ある番組編成と施設の有効活用を図り、馬産地北海道として特色ある競馬の開催

- 夏季競馬の最高峰のグレード競走として札幌記念をGIに昇格していただきたい
- 函館開催にグレード競走の新設をしていただきたい
- 札幌・函館で行われる重賞競走を国際招待競走とし、シリーズ終盤に札幌記念とワールドオールスタージョッキーズとともにインターナショナルウィークとして番組・イベントの充実を図っていただきたい。

2023年12月20日

一般社団法人札幌馬主協会
会長 岡田 牧 雄

一般社団法人函館馬主協会
会長 高橋 則 行



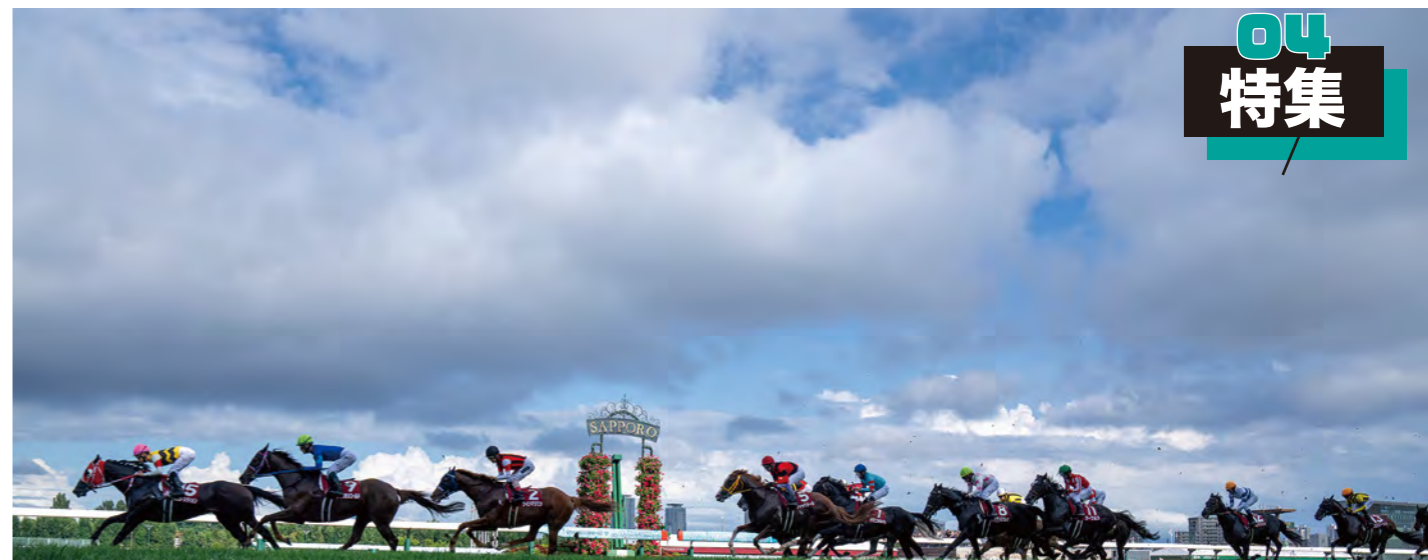
「北海道シリーズの開催日数の拡大と相互開催」
「国内外の競馬ファンに対し魅力ある番組編成と施設の有効活用を図り、馬産地北海道として特色ある競馬の開催」

函館馬主協会と連名で要望書を提出

札幌馬主協会は12月20日、（一社）函館馬主協会（会長・高橋則行氏）と連名でJRA日本中央競馬会の吉田正義理事長及び札幌競馬場の越智直弘場長、函館競馬場の安間現場長に対して「北海道シリーズの発展に関する要望書」を提出しました。

岡田会長は「世界的に見ればどの国でも競馬の中心は馬産地。日本においても馬産地競馬をしっかりと位置においてほしい。北海道は日本が世界に誇る観光都市。その場所で、世界から馬が集まってくる国際競走を行うことは国際社会の中で孤立してしまう可能性がある」とアピールし。高橋会長の代理として出席した下河辺行雄副会長は「開催日割りを元に戻して欲しい」ということと、函館競馬におけるグレード競走を新設してほしい。競馬場への入厩期間を函館と札幌を同時に、相互開催を行うことは出走頭数の確保はもとより、馬場の保全につながり人と馬がより安全に競馬を行うことができる。また、馬が調教を行う朝の気温は、小倉、新潟に比べればるかに涼しいので、暑熱対策、動物愛護になる」と効果が語られました。

また、これに先立ち、札幌市（市長・秋元克広氏）、札幌商工会議所（会頭・岩田圭剛氏）、（一社）札幌観光協会（会長・長野実氏）及び函館市（市長・大泉潤氏）、函館商工会議所（会頭・久保俊幸氏）、函館国際観光コンベンション協会（会長・森健二氏）から、これら要望書に対して「札幌、函館両競馬場は、市民はもちろんのこと道内外から多くのファン、観光客が訪れる場所でもあり両市の魅力向上と経済・観光産業の活性化に欠かせないもの」として要望書に対する賛同書も吉田理事長ら3名に対して提出されています。



札幌記念G I 昇格への道

会員所有馬が上位を独占 第59回札幌記念

○ファンに支えられているレース

史上初の白毛馬対決となったほか国内外のGI優勝馬5頭が顔を揃えて大きな話題となり、レース単体の売得金レコードを塗り替えた前年にはわずかに及びませんでした。23年札幌記念の売得金は96億1092万2100円。これは、一昨年の77億2144万4800円、21年の61億3075万8300円を大きく上回るもの。この売得金が示す結果からは、多くのファンが札幌記念を待ち望んでいることがうかがえます。

そして、23年も札幌記念出走馬は、その後のレースでも大活躍します。1着となったプログノース（社台レースホース所有）は、次走「天皇賞・秋」では勝ったイクイノックスからコンマ6秒差の3着。それでも、従来のレコードタイムを上回る1分55秒8のタイムを記録しています。そのプログノースに頭差まで迫ったのが札幌記念4着のダノンペルーガでした。言うまでもなく、春のドバイターフでは勝ったロードノースから4分の3差の2着。前年秋の天皇賞では勝ったイクイノックスとコンマ2秒差、2着パンサ

ラッサとはコンマ1秒差の接戦を演じて3着となった実力馬です。

札幌記念で、そのダノンペルーガに先着したのが3歳馬トップナイフ（安原浩司氏所有）とソーヴァリアント（社台レースホース所有）の2頭でした。前者は秋ステークスに勝ってホープフルステークスの2着馬で、弥生賞ではのちのダービー馬タスティエーラから1馬身2着に健闘しています。後者も5歳にして重賞2勝の強豪。さらなる活躍が見込める1頭です。

その結果、過去3年間のレースレーティングは116・0。GI昇格に必要な115・0を引き続きクリアしていることをご報告させていただきます。

○「真の国際化」とは

日本競馬が国際セリ名簿基準書の定めるパート1国に昇格したのが2007年。今では、すべての重賞競走が国際競走として、その門戸を海外にむけて開いています。日本重賞競走にチャレンジしてくる馬はほほいしません。手元の資料によれば、国際招待競走を除くレースで最後に挑戦してきたのは23年のフェスラリーステークスに出走してきたシャールズスパイト（9着）。22年のエリサベス女王杯に出走してきたマジカルラグーン



▽2023年8月20日 札幌競馬場（晴れ、やや重）

第11競走 第58回札幌記念（G II、3歳以上、定量）芝2000m

着順	馬	馬名	性別	斤量	騎手	厩舎	タイム	人気	レーティング
1	13	プログノース	牡	58	川田将雅	栗・中内田充正	2.01.5	2	119
2	10	トップナイフ	牡	55	横山和生	栗・昆貢	2.02.2	9	111
3	1	ソーヴァリアント	牡	58	C.ルメール	美・大竹正博	2.02.7	4	106
4	6	ダノンペルーガ	牡	58	J.モレイラ	美・堀宣行	2.02.8	3	105
5	12	ヒシイグアス	牡	58	浜中俊	美・堀宣行	2.02.8	7	

2021~23年平均レースレーティング

レース名	格	場所	距離	レーティング
ジャパンC	G I	東京	2,400芝	122.92
天皇賞（秋）	G I	東京	2,000芝	122.42
有馬記念	G I	中山	2,500芝	121.83
宝塚記念	G I	阪神	2,200芝	121.42
東京優駿	G I	東京	2,400芝	119.33
安田記念	G I	東京	1,600芝	119.17
大阪杯	G I	阪神	2,000芝	119.00
マイルChS	G I	京都	1,600芝	118.75
皐月賞	G I	中山	2,000芝	118.42
天皇賞（春）	G I	京都	3,200芝	116.83
毎日王冠	G II	東京	1,800芝	116.50
菊花賞	G I	京都	3,000芝	116.25
オールカマー	G II	中山	2,200芝	116.25
札幌記念	G II	札幌	2,000芝	116.00
チャンピオンズC	G I	中京	1,800ダ	115.58
NHKマイルC	G I	東京	1,600芝	115.33
金鯱賞	G II	中京	2,000芝	115.25
日経賞	G II	中山	2,500芝	115.17

2021~2023年平均レーティング 116.00と確定！

札幌記念レースレーティング

年	1着馬	年間R	2着馬	年間R	3着馬	年間R	4着馬	年間R	ファイナルR
2019	プラストワンピース	120	サングレーザー	119	フィエールマン	119	ワグネリアン	117	118.75
2020	ノームコア	121	ペルシアンナイト	115	ラッキーライラック	120	ポンテザール	110	116.50
2021	ソダシ	119	ラヴズオンリーユー	122	ペルシアンナイト	115	マイネルウィルトス	112	117.00
2022	ジャックドール	118	パンサラッサ	120	ウインマリリン	118	アラタ	113	117.25
2023	プログノース	119	トップナイフ	111	ソーヴァリアント	106	ダノンペルーガ	119	113.75

※牝馬のレーティングは4ポンド加算

（18着）で、その前は18年チャンピオンズカップに出走したパヴェル（15着）までさかのぼらなければなりません。招待競走であるはずのジャパンカップでさえ、近10年間で延べ25頭。19年には1頭も出走馬がなく、23年も1頭のみでした。

逆に、日本産、日本調教馬たちの海外進出は目覚ましいものがあり、23年は世界最高賞金レース「サウジカップ」を勝ったほか「ドバイワールドカップ」も当協会会員所有馬ウシユバテソーロが

追い込み勝ちを決めるなど年間9勝。ほか米国競馬の最高峰レースといわれるフリーダーズCクラシックも当協会会員所有馬デルマントガケが2着と大健闘しています。これが、JRA日本中央競馬会が長年望んでいた「真の国際化」という姿なのでしょうか。

11月下旬は欧州競馬にとつてはシーズンオフ。米国競馬には11月上旬にフリーダーズカップが行われます。海外の馬が参戦しやすいようなレースを創設することが求められているような気が

格付け基準（1着賞金）

	G I	G II	G III	リステッド
2歳	32,000,000	24,000,000	20,000,000	16,000,000
3歳	40,000,000	30,000,000	24,000,000	18,000,000
3(4)歳以上	50,000,000	40,000,000	30,000,000	24,000,000

格付け基準（レーティング）

	G I	G II	G III	リステッド
2歳	110	105	100	95
同牝馬限定	106	101	96	91
3歳	113	108	103	98
牝馬限定	109	104	99	94
3(4)歳以上	115	110	105	100
同牝馬限定	111	106	101	96

道営だより

文・山田 康文

ホッカイドウ競馬の23年シーズンは4月19日に開幕し、11月9日まで全15開催82日間（前年比3日減）で行われ、その発売額は512億8091万4960円（トリアル馬単を含む）。開催日数が少なかった分、全体で15億円ほど下回ったが、計画対比では111.9%を記録。1日当たりの発売額は前年を上回り、4年連続で500億円を超える売り上げを記録した。

重賞競走をはじめとする多くの競走で賞金、諸手当を増額したほか「早期出走奨励金」の充実。「冬季在厩3歳馬手当」を新設させたほか、在籍を促すための遠征輸送費一部補助などの施策や、公式YouTubeチャンネルを活用した競馬の魅力や、2歳馬を中心とした坂路調教映像の情報発信などの取組が実を結んだ格好となった。具体的には言うならば、開催日数は3日減でも前年と同じ982競走が行われ、延べ出走頭数は664頭増の9811頭と大幅増。結果1レースあたりの平均出走頭数

は前年比107.5%となる10・0頭となり、ファンに対して魅力的な番組を提供できた。なおリーディングトレーナーは140勝を記録した田中淳司調教師が9年連続9回目の首位となり、騎手部門ではホッカイドウ競馬の年間最多勝記録を更新する153勝をあげた落合玄太騎手が2年連続2回目をリーディングジョッキーに輝いている。そんなホッカイドウ競馬の24年シーズンは

4月17日に開幕し、11月7日まで15開催84日間（前年比2日増）を、JBC開催日を除きナイター開催で実施する。24年シーズンから実施される「3歳ダート三冠競走」に向けて、ホッカイドウ競馬所属の強い3歳馬による魅力ある3歳馬の番組づくりをするため、3歳馬に対して冬季の在厩支援を強化する。昨年、新設された「在厩3歳馬手当」は前年の閉幕日まで在籍していた2歳馬が、そのまま翌年度の



第1回ネクストスターを勝ったトラジロウ



道営記念を勝ったシルトブレは購買補助対象馬

第2回開催までに出走した場合に30万円を支給するというものだったが、今回は該当馬が1勝以上をあげ、かつ収得賞金（ホッカイドウ競馬の競走において収得した5着までの本賞金の合計）が200万円以上、または重賞競走出走経験馬の場合はさらに70万円が支給されることになった。

また、前年閉幕まで在籍していた2歳馬が、そのまま他場のダートグレード競走（JRA特別指定交流競走含む）に出走した場合は100万円を、その他重賞競走出走した場合は24年12月末までを対象に50万円の出走奨励金が支払われることとなった。

3歳重賞競走をさらに魅力的なものとするため、岩手競馬と隔年で行われる3歳重賞級認定

競走「ネクストスター北日本」（1着賞金1200万円）が新設されたほか、北海優駿の1着賞金が1500万円に、王冠賞も1着賞金が1000万円に増額されることとなった。また、牝馬路線の充実を狙い3歳牝馬限定重賞「フロイラインスプリント」（1着賞金500万円）と、3歳以上牝馬限定「グランシャリオクインズ」（1着賞金500万円）が新たに設けられ、「フロイラインカップ」（1着賞金500万円）が再開される。逆に2歳馬限定の短距離重賞イノセントカップは廃止となる。3歳以上の高額条件級も1着賞金が、それぞれ10万円づつ増額。A3クラスは90万円に、A4クラスは80万円となり、B1、B2が70万円、B3、B4は65万円となる。ほか3歳以上のオープン、A1クラスの出走馬に對する「早期出走奨励金」「ダートグレード競走着外手当」「輸送費に對する補助事業」は継続。一般社団法人北海道馬主会が協力して実施している「購入馬に對する補助事業」は、購入金額40万円以上馬に對する20万円の助成は、昨年よりも5頭増えて20頭が上限とな

た。

ホッカイドウ競馬発売成績累年比較

年度	開催日数	総入場者数	発売金額	1日あたり発売額	計画対比	前年対比	開催競馬場
2014	15開催80日間	280,187	15,706,698,980	196,333,738	112.0%	112.1%	門別
2015	15開催80日間	279,982	16,900,139,110	211,251,739	113.5%	107.6%	門別
2016	15開催80日間	267,539	20,355,012,180	254,437,652	117.6%	120.4%	門別
2017	15開催80日間	265,978	24,641,214,240	308,015,178	114.0%	121.1%	門別
2018	16開催76日間	271,337	25,143,427,050	330,834,566	99.3%	102.0%	門別
2019	15開催80日間	301,155	33,082,144,890	413,526,811	125.8%	131.6%	門別
2020	15開催82日間	185,271	52,044,806,060	634,692,757	155.6%	157.3%	門別
2021	15開催82日間	260,937	52,299,692,470	637,801,128	139.1%	100.5%	門別
2022	15開催85日間	304,031	52,778,575,710	620,924,420	120.2%	100.9%	門別
2023	15開催82日間	272,988	51,280,914,960	625,377,012	111.9%	97.2%	門別

（人、円）

*入場人員は門別競馬場及び場外発売所の合計

ホッカイドウ競馬2024年重賞日程

月日	競走名	グレード	競走種別	距離	1着賞金(円)	変更点
4月18日	ネクストスター北日本	H1	3歳	ダ1200	12,000,000	新設
4月25日	エトワール賞	H3	3歳上	ダ1200	5,000,000	
5月2日	北斗盃	H3	3歳	ダ1600	5,000,000	
5月9日	コスモバルク記念	H2	3歳上	ダ1800	6,000,000	
5月16日	フロイラインスプリント	H3	3歳牝馬	ダ1200	5,000,000	新設
5月23日	ヒダカソウカップ	H3	3歳上・牝	ダ1600	5,000,000	
6月6日	GS門別スプリント	H3	3歳上	ダ1000	5,000,000	
6月13日	北海優駿	H1	3歳	ダ2000	15,000,000	↑500
6月18日	フロイラインカップ	H3	3歳牝馬	ダ1700	5,000,000	再開
6月19日	栄冠賞	H2	2歳	ダ1200	5,000,000	
6月20日	赤レンガ記念	H3	3歳上	ダ2000	5,000,000	
7月11日	星雲賞	H3	3歳	ダ1200	5,000,000	
7月17日	ボラリスサマースプリント	H3	3歳以上	ダ1200	5,000,000	新設
7月18日	ノースクイーンカップ	H2	3歳上・牝	ダ1800	6,000,000	
7月25日	リリーカップ	H3	2歳・牝	ダ1000	4,000,000	
7月31日	旭岳賞	H3	3歳上	ダ1600	5,000,000	
8月1日	王冠賞	H2	3歳	ダ1800	10,000,000	↑400
8月8日	サッポロクラシックC	H3	2歳	ダ1200	4,000,000	
8月15日	北海道スプリントカップ	JpnIII	3歳	ダ1200	24,000,000	↑200
8月21日	フルールカップ	H3	2歳・牝	ダ1200	4,000,000	
8月22日	ブリーダーズGJr.C	H2	2歳	ダ1700	5,000,000	
8月27日	ブリーダーズゴールドカップ	JpnIII	3歳上・牝	ダ2000	31,000,000	
9月12日	ウボボイAスプリント	H2	3歳上	ダ1200	6,000,000	
9月19日	フローラルカップ	H3	2歳・牝	ダ1600	4,000,000	
9月26日	瑞穂賞	H2	3歳上	ダ1800	6,000,000	
10月2日	サンライズカップ	H1	2歳	ダ1800	10,000,000	
10月3日	ネクストスター門別	H1	2歳	ダ1200	10,000,000	
10月10日	GSクイーンズ	H3	3歳上・牝	ダ1700	5,000,000	新設
10月24日	プロッサムカップ	H2	2歳・牝	ダ1700	5,000,000	
10月31日	エーデルワイス賞	JpnIII	2歳・牝	ダ1200	20,000,000	
11月4日	JBC2歳優駿	JpnIII	2歳	ダ1800	35,000,000	
11月6日	道営スプリント	H1	3歳上	ダ1200	10,000,000	
11月7日	道営記念	H1	3歳上	ダ2000	20,000,000	

2023年会員所有馬重賞勝利記録

日付	場所	レース名	クラス	馬名	性齢	馬主	距離	タイム	騎手	調教師	生産者
1月8日	中京	シンザン記念	G III	ライトクオンタム	牝3	社台レースホース	芝1600	1.33.7	武豊	栗・武幸四郎	社台ファーム
1月14日	中京	愛知杯	G III	アートハウス	牝4	H.H.シェイク・ファハド	芝2000	2.03.1	川田将雅	栗・中内田充正	三嶋牧場
1月15日	中山	京成杯	G III	ソールオリエン	牡3	社台レースホース	芝2000	2.02.2	横山武史	美・手塚貴久	社台ファーム
1月29日	東京	根岸ステークス	G III	レモンポップ	牡5	ゴドルフィン	ダ1400	1.22.5	戸崎圭太	美・田中博康	米国
2月1日	川崎	川崎記念	Jpn1	ウシュバテソロ	牡6	了徳寺健二ホールディングス	ダ2100	2.16.0	横山和生	美・高木登	千代田牧場
2月19日	東京	フェブラリーステークス	G I	レモンポップ	牡5	ゴドルフィン	ダ1600	1.35.6	坂井瑠星	美・田中博康	米国
3月12日	阪神	フィリーズレビュー	G II	シングザットソング	牝3	社台レースホース	芝1400	1.20.7	吉田隼人	栗・高野友和	社台Corp.白老ファーム
3月12日	中京	金鯱賞	G II	プログノーシス	牡5	社台レースホース	芝2000	1.59.8	川田将雅	栗・中内田充正	社台ファーム
3月25日	UAE	ドバイワールドカップ	G I	ウシュバテソロ	牡6	了徳寺健二ホールディングス	ダ2000	2.03.2	川田将雅	美・高木登	千代田牧場
3月25日	UAE	U A Eダービー	G II	デルマソトガケ	牡3	浅沼廣幸	ダ1900	1.55.8	C.ルメール	栗・音無秀孝	社台ファーム
3月25日	中山	日経賞	G II	タイトルホルダー	牡5	山田弘	芝2500	2.36.8	横山和生	美・栗田徹	岡田スタッド
3月26日	中京	高松宮記念	G I	ファストフォース	牡7	安原浩司	芝1200	1.11.5	団野大成	栗・西村真幸	三嶋牧場
3月26日	中山	マーチステークス	G III	ハヤブサナンデクン	牡7	武田修	ダ1800	1.51.4	津村明秀	栗・吉村圭司	グランド牧場
4月16日	中山	皐月賞	G I	ソールオリエン	牡3	社台レースホース	芝2000	2.00.6	横山武史	美・手塚貴久	社台ファーム
4月22日	福島	福島牝馬ステークス	G III	ステラリア	牝5	社台レースホース	芝1800	1.47.9	団野大成	栗・斉藤崇史	社台Corp.白老ファーム
4月23日	東京	フローラステークス	G II	ゴールデンハインド	牡3	サラブレッドクラブ・ラフィアン	芝2000	1.58.9	菅原明良	美・武市康男	ビッグレッドファーム
5月28日	東京	目黒記念	G II	ヒートオンビート	牡6	社台レースホース	芝2500	2.30.8	D.レーン	栗・友道康夫	社台ファーム
7月5日	川崎	スパーキングレディカップ	Jpn3	レディバグ	牝5	ゴールドアップ・カンパニー	ダ1600	1.41.3	酒井学	栗・北出成人	ゴールドアップカンパニー
7月17日	盛岡	マーキュリーカップ	Jpn3	ウィルソンテソロ	牡4	了徳寺健二ホールディングス	ダ2000	2.01.8	川田将雅	美・小手川準	リョーケンファーム
7月30日	新潟	アイビスサマーダッシュ	G III	オールアットワンス	牝5	吉田勝己	芝1000	0.54.9	石川裕紀	美・中館英二	ノーザンファーム
8月6日	新潟	レバードステークス	G III	ライオットガール	牝3	ヒダカファーム	ダ1800	1.50.8	岩田望来	栗・中村直也	ヒダカファーム
8月20日	札幌	札幌記念	G II	プログノーシス	牡5	社台レースホース	芝2000	2.01.5	川田将雅	栗・中内田充	社台ファーム
8月26日	小倉	小倉サマージャンプ	J G III	テオオソクラテス	牡6	小笹公也	芝3390	3.47.2	小坂忠士	栗・奥村豊	ヤナガワ牧場
9月17日	阪神	ローズステークス	G II	マスクトディーヴァ	牝3	社台レースホース	芝1800	1.43.0	岩田望来	栗・辻野泰之	社台ファーム
9月20日	浦和	テレ玉杯オーバルスプリント	Jpn3	ドラइスタウト	牡4	YGGホースクラブ	ダ1400	1.35.2	戸崎圭太	栗・牧浦充徳	下河辺牧場
9月26日	金沢	白山大賞典	Jpn3	ウィルソンテソロ	牡4	了徳寺健二ホールディングス	ダ2000	2.11.0	川田将雅	美・小手川準	リョーケンファーム
9月27日	船橋	日本テレビ盃	Jpn2	ウシュバテソロ	牡6	了徳寺健二ホールディングス	ダ1800	1.51.7	川田将雅	美・高木登	千代田牧場
10月9日	盛岡	マイルCS南部杯	Jpn1	レモンポップ	牡5	ゴドルフィン	ダ1600	1.33.8	坂井瑠星	美・田中博康	米国
10月15日	東京	東京ハイジャンプ	J G II	マイネルグロン	牡5	サラブレッドクラブ・ラフィアン	芝3110	3.32.0	石神深一	美・青木孝文	ビッグレッドファーム
11月3日	大井	JBCクラシック	Jpn1	キングズソード	牡4	ヒダカ・ブリーダーズ・ユニオン	ダ2000	2.05.1	J.モレイラ	栗・寺島良	日進牧場
11月4日	東京	京王杯2歳ステークス	G II	コラソソビート	牝2	サラブレッドクラブ・ラフィアン	芝1400	1.20.6	横山武史	美・加藤士津	ビッグレッドファーム
11月5日	東京	アルゼンチン共和国杯	G II	ゼッフィーロ	牡4	社台レースホース	芝2500	2.29.9	J.モレイラ	栗・池江泰寿	社台ファーム
11月11日	京都	デイリー杯2歳ステークス	G II	ジャンタルマンタル	牡2	社台レースホース	芝1600	1.34.5	鮫島克駿	栗・高野友和	社台ファーム
11月11日	東京	武蔵野ステークス	G III	ドラइスタウト	牡4	YGGホースクラブ	ダ1600	1.35.2	横山武史	栗・牧浦充徳	下河辺牧場
11月12日	福島	福島記念	G III	ホウオウエミーズ	牝6	小笹芳央	芝2000	2.00.9	田辺裕信	美・池上昌和	社台ファーム
11月22日	園田	兵庫ジュニアGP	Jpn2	イーグルノワール	牡2	社台レースホース	ダ1400	1.29.4	松山弘平	栗・音無秀孝	社台ファーム
11月29日	船橋	クイーン賞	Jpn3	ライオットガール	牝3	ヒダカファーム	ダ1800	1.54.6	岩田望来	栗・中村直也	ヒダカファーム
12月3日	中京	チャンピオンズカップ	G I	レモンポップ	牡5	ゴドルフィン	ダ1800	1.50.6	坂井瑠星	美・田中博康	米国
12月16日	中山	ターコイズステークス	G III	フィアスプライド	牝5	ゴドルフィン	芝1600	1.32.7	ルメール	美・国枝栄	ダーレー・ジャパン・ファーム
12月17日	阪神	朝日杯フューチュリティステークス	G I	ジャンタルマンタル	牡2	社台レースホース	芝1600	1.33.8	川田将雅	栗・高野友和	社台ファーム
12月23日	中山	中山大障害	J G I	マイネルグロン	牡5	サラブレッドクラブ・ラフィアン	芝4100	4.37.9	石神深一	美・青木孝文	ビッグレッドファーム
12月29日	大井	東京大賞典	G I	ウシュバテソロ	牡6	了徳寺健二ホールディングス	ダ2000	2.07.3	川田将雅	美・高木登	千代田牧場

会員の異動

2023年3月1日から2024年2月29日までの異動についてお知らせします。

入会者



源津 力氏 (むかわ町)
久木田 隆氏 (札幌市)
金井 成行氏 (大阪府)
武田 美香氏 (札幌市)
斉藤 三寛氏 (札幌市)
茂木 和久氏 (千葉県)
阿達 泰之氏 (神奈川県)



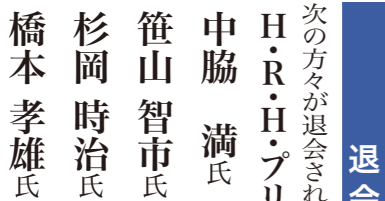
浅沼 まゆみ氏 (札幌市)
白井 さゆり氏 (日高町)
渡邊 英俊氏 (石狩市)
前野 真一氏 (日高町)
山田 裕二氏 (新ひだか町)
江口 知宙氏 (札幌市)
小笹 公也氏 (大阪府)



白井 匠氏 (旧代表者 白井康博氏)
安田 晶代氏 (旧代表者 高田喜嘉氏)
中村 智幸氏 (新ひだか町)
出水 賀一氏 (東京都)
四宮 圭氏 (小樽市)
高松 宏幸氏 (静岡県)
高橋 司氏 (旧B.C.S 日高町)

代表者変更

ほか匿名会員1名入会



廣島 剛氏 (23年12月8日逝去)

次の方々が退会されました。在籍中のご協力に感謝します。
H・R・H・プリンセス・ハヤ氏
中脇 満氏
橋本博之氏
橋本 孝雄氏

個人へ変更



古川 雅且氏 (旧代表者 古川博氏)

おくりやみ

次の方々が逝去されました。謹んで哀悼の意を表しますとともに心よりご冥福をお祈り申し上げます。



伊藤 佳幸氏 (23年3月13日逝去)

昭和61年に入会され、平成18年から理事へ令和4年からは相談役として当協会の運営にご尽力いただき多くの功績を残されました。



岩本最高顧問逝去

当協会最高顧問の岩本允さんが2023年（令和5年）11月23日午前3時48分、敗血症による心不全のため逝去されました。88歳でした。

岩本最高顧問は昭和51年5月に当協会に入会され、昭和52年から理事、昭和54年から副会長、昭和58年6月から平成26年2月までの30年間、第4代目会長として、協会の運営にご尽力されました。

会長在任中は、競馬開催時にはほぼ毎日、競馬場に足を運ばれて身近な会長として親しまれたほか、札幌競馬場に日本で初めての洋芝コースを実現させるなど様々な問題に対して自ら先頭にたつてスムーズな協会運営に配慮されました。

1989年からは札幌競馬場施設改善の要望を行い以後、約四半世紀の粘り強い要望の結果、2014年に市場機能を兼ね備えた札幌競馬場新スタンド改築が実現、また馬産地に一番近い競馬場であり、生産者会員も多いことから馬産地の保全・改善に配慮され、ホッカイドウ競馬が窮地の際には、いち早く北海道と連携し、ホッカイドウ競馬を支援するなど、競馬発展のためにご尽力されておりました。

また、日本馬主協会連合会の社会貢献委員長として、予算の獲得増、社会福祉への支援を強力に進められました。ここに謹んで哀悼の意を表します。ありがとうございました。

◆ 編集後記

「北の蹄跡」第18号（通巻72号）をお届けいたします。

- 昨年の札幌競馬開催は、大変な猛暑や落雷など異常気象もありましたが、色とりどりの花で装飾された競馬場にて、開催期間中183,322人の競馬ファンの前で白熱したレースが展開されました。また、馬主エリアにおいてはビュッフェ形式一部の料理提供をライブキッチン実施、利用された皆様から好評を得ました。表紙は「盛夏の札幌競馬場」、裏表紙は「開催に向けて準備する札幌競馬場」の風景です。
- 今号の特集は4つ、1つは「JRA吉田新理事長との特別対談」について。2023年札幌開催を振り返る「2023札幌開催回顧」、当協会要望事項の一つ「札幌記念GⅠ昇格への道」、最後に「リニューアルJRA馬事公苑紹介」をお送りいたします。本編集にあたりJRAはじめご協力いただきました方々にこの場をお借りしましてお礼申し上げます。
- 前号でお伝えしておりました会報発行は年1回とし、1年間の協会活動やトピックスにより記録誌的な編集とし、ホームページにて、各コラムニストにより月1回コラムを更新、会員ページは会員勝ち馬掲載のほか、各競馬場の馬主席申し込みなどのコンテンツを追加することにより、リアルタイムに会員への情報提供を行ってまいります。引き続き、当委員会では、会員の皆様に親しまれ、馬主活動に役立てられるような情報提供に努めてまいりますので、ご意見などありましたらお寄せいただけますようよろしくお願いいたします。

総務・広報委員会	委員長	木村 貢
	副委員長	吉澤克己
	委員	藤原俊哉
	委員	下河辺隆行
	委員	岡田隆寛

◆ 札幌馬主協会ホームページについて

当協会のホームページを立ち上げて9年目を迎えます。

会員の皆様にさまざまな情報提供ができるよう、3月以降会員ページで馬主席申し込み運用開始、コラムなど月1回更新し、少しずつ会員にとって便利でリアルタイムな情報提供のしてまいります。

ご意見等ございましたら事務局までお寄せください。

アドレス <http://sapporo-rho.jp>

● 事務局から

昨年の北海道シリーズ開催（札幌・函館）では、コロナ前の様に多くの会員様に来場いただき、皆様のご協力により混乱なく終えることができましたこと感謝申し上げます。現在、各競馬場の馬主エリアへの入場につきましてはGⅠレース施行日以外および一部の競馬場以外はおおむね馬主家族の家族章着用者2名を基本とし入場いただけるルールとなっております。

なお、美浦・栗東競馬会館は、通常通りの運用となっております。

● 馬主席・競馬会館等のご利用などについてのお問い合わせやご不明な点などございましたら、事務局までご連絡ください。

また、札幌競馬場にお越しの際はお気軽に事務所にお立ち寄りくださいますよう事務局一同お待ちしております。（佐藤・嶋田・水上）

「北の蹄跡」(通巻第72号)

2024年3月31日発行
発行：一般社団法人 札幌馬主協会
編集発行人：岡田牧雄
〒060-0016
札幌市中央区北16条西16丁目1-1
TEL 011(726)0461

企画・編集：(同)興文社

表紙・篠原美穂子

写真提供：JRA、NAR

本誌掲載の写真および記事等の無断転載を禁じます



頭を抱えて悩み苦しむ時間も、
胸が締め付けられる辛い思いも、
腹がキリキリと痛むような心配事も、
生きていれば幾度となく訪れる。

でもその経験はすべて、
眼から思わず涙があふれるほどの感動や、
手を取り抱きあって仲間と喜びを共有する瞬間、
心から「ありがとう」と言える自分になるためにある。